

平成30年度 授 業 時 間 割 3年前期

月	日	月								火								水								木								金										
		1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8			
		8:50	10:00	11:10	13:00	14:10	15:20	16:30	17:40	8:50	10:00	11:10	13:00	14:10	15:20	16:30	17:40	8:50	10:00	11:10	13:00	14:10	15:20	16:30	17:40	8:50	10:00	11:10	13:00	14:10	15:20	16:30	17:40	8:50	10:00	11:10	13:00	14:10	15:20	16:30	17:40			
2	9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40	3	9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40	4	9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40	5	9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40	6	9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40
4	2	医と社会							3	医と社会							4	医と社会							5	医と社会							6	医と社会										
4	9	基礎医学TBL							10	自主学習							11	自主学習							12	自主学習							13	自主学習										
4	16	病理総論系							17	病理総論系							18	病理総論系							19	放射線医学							20	放射線医学										
4	23	病理総論系試験							24	放射線試験							25	病理総論系							26	循環器系							27	循環器系										
4	30	振替休日							1	医学セミ							2	循環器系							3	憲法記念日							4	みどりの日										
5	7	血リン系							8	循環器系							9	循環器系							10	血液リン系							11	血液リン系										
5	14	循環器系							15	循環器系							16	血液系							17	血液系							18	血液系										
5	21	循環器系							22	循環器系							23	血液系							24	血液系							25	血液系										
5	28	循環器系							29	自主学習							30	基礎医学TBL							31	循環器系							1	循環器系										
6	4	基礎医学TBL							5	感染症系							6	感染症系							7	基礎医学TBL							8	基礎医学TBL										
6	11	循環器系試験							12	腎放							13	腎放							14	呼吸							15	呼吸										
6	18	呼吸器系							19	呼吸器系							20	基礎医学TBL							21	基礎医学TBL							22	基礎医学TBL										
6	25	呼吸器系							26	腎泌尿系							27	呼吸器系							28	呼吸器系							29	呼吸器系										
6	2	呼吸器系							3	呼吸器系							4	呼吸器系							5	呼吸器系							6	呼吸器系										
6	9	呼吸器系							10	呼吸器系							11	呼吸器系							12	呼吸器系							13	呼吸器系										
6	16	海の日							17	感染症系							18	感染症系							19	自主学習							20	自主学習										
6	23	呼吸器系							24	自主学習							25	感染症系試験							26	自主学習							27	呼吸器系試験										
6	30	自主学習							1	薬理系試験							2	薬理系試験							3	薬理系試験							4	薬理系試験										
8	6	夏季休業							7	夏季休業							8	夏季休業							9	夏季休業							10	夏季休業										
8	13	夏季休業							14	夏季休業							15	夏季休業							16	夏季休業							17	夏季休業										
8	20	夏季休業							21	夏季休業							22	夏季休業							23	夏季休業							24	夏季休業										
8	27	夏季休業							28	夏季休業							29	夏季休業							30	夏季休業							31	夏季休業										
9	3	再試験期間							4	再試験期間							5	再試験期間							6	再試験期間							7	再試験期間										
9	10	再試験期間							11	再試験期間							12	再試験期間							13	再試験期間							14	再試験期間										

平成30年度 授 業 時 間 割 3年後期

月	日	月								火								水								木								金							
		1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
		8:50	10:00	11:10	13:00	14:10	15:20	16:30	17:40	8:50	10:00	11:10	13:00	14:10	15:20	16:30	17:40	8:50	10:00	11:10	13:00	14:10	15:20	16:30	17:40	8:50	10:00	11:10	13:00	14:10	15:20	16:30	17:40	8:50	10:00	11:10	13:00	14:10	15:20	16:30	17:40
10	17	敬老の日							18	英A							19	運動系							20	運動系							21	運動系							
10	24	振替休日							25	英C							26	臨床検査医学							27	臨床検査医学							28	臨床検査医学							
10	1	運動系							2	生殖系							3	運動系							4	運動系							5	運動系							
10	8	体育の日							9	生殖系							10	運動系							11	運動系							12	運動系							
10	15	運動系							16	運動系							17	臨床検査医学							18	臨床検査医学							19	臨床検査医学							
10	22	運動系							23	自主学習							24	自主学習							25	消化器系							26	消化器系							
10	29	臨床検査医学							30	臨床検査医学							31	臨床検査医学							1	消化器系							2	消化器系							
11	5	自主学習							6	臨床検査医学							7	臨床検査医学							8	臨床検査医学							9	臨床検査医学							
11	12	臨床検査医学							13	消化器系							14	消化器系							15	消化器系							16	消化器系							
11	19	内代栄系							20	消化器系							21	消化器系							22	消化器系							23	消化器系							
11	26	内代栄系							27	消化器系							28	消化器系							29	消化器系							30	消化器系							
12	3	内代栄系							4	消化器系							5	消化器系							6	消化器系							7	消化器系							
12	10	再試験期間							11	再試験期間							12	再試験期間							13	再試験期間							14	再試験期間							
12	17	再試験期間							18	再試験期間							19	再試験期間							20	再試験期間							21	再試験期間							
12	24	振替休日							25	冬季休業							26	冬季休業							27	冬季休業							28	冬季休業							
1	31	冬季休業							1	元日							2	元日							3	元日							4	元日							
1	7	リサーチセミナー							8	リサーチセミナー							9	リサーチセミナー							10	リサーチセミナー							11	リサーチセミナー							
1	14	成人の日							15	リサーチセミナー							16	リサーチセミナー							17	リサーチセミナー							18	リサーチセミナー							
1	21	リサーチセミナー							22	リサーチセミナー							23	リサーチセミナー							24	リサーチセミナー							25	リサーチセミナー							
1	28	リサーチセミナー							29	リサーチセミナー							30	リサーチセミナー							31	リサーチセミナー							1	リサーチセミナー							
2	4	リサーチセミナー							5	リサーチセミナー							6	リサーチセミナー							7	リサーチセミナー							8	リサーチセミナー							
2	11	振替休日							12	退職教授記念講演会							13	退職教授記念講演会							14	退職教授記念講演会							15	退職教授記念講演会							
2	18	リサーチセミナー							19	リサーチセミナー							20	リサーチセミナー							21	リサーチセミナー							22	リサーチセミナー							
2	25	リサーチセミナー							26	リサーチセミナー							27	リサーチセミナー							28	リサーチセミナー							29	リサーチセミナー							
3	4	春季休業							5	春季休業							6	春季休業							7	春季休業							8	春季休業							
3	11	春季休業							12	春季休業							13	春季休業							14	春季休業							15	春季休業							
3	18	春季休業							19	春季休業							20	春季休業							21	春季休業							22	春季休業							
3	25	春季休業							26	春季休業							27	春季休業							28	春季休業							29	春季休業							

医と社会Ⅲ

責任者	氏名(教室)	安武 亨(先端医育センター)		
	電話番号	095-819-7987	e-mail	toru@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30~17:30		

対象年次・学期	3年次・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
科目英語名	Medical ethics and philosophy 3		

1. 授業の概要及び位置づけ

患者の立場に立った医療を行える医師を目指すために、診療所の体験を通して、患者との良好なコミュニケーションのとり方、患者の診察法、チーム医療の重要性を理解する。また、ワークライフバランスについて、仕事と生活の相乗効果を高める考え方を学ぶ。

2年次までは「病気を診るだけでなく病める人の心とおかれている社会・環境を洞察しうる医師となる」ことなどをめざして、主として医療従事者から見た講義・実習が行われてきた。3年次では、医療従事者でない立場の人から見た場合の、哲学・倫理・社会観・そこで提起される問題について、一緒に考えていく。我々がおかれている現代社会において、「何が正義か?」、「何に価値をおくべきか?」、「倫理観とはどうあるべきか?」といった根本的な哲学については、病気の診断・治療などの現場の対応に追われていると、社会背景を考慮しているようでも、しだいに見えなくなってゆくものである。

加えて、これまでなかなか触れる機会の少なかった歯学系分野についても学ぶ。

2. 授業到達目標

1. 自らの知識・能力を振り返り、新たな学習の必要性を認知して、信頼できる情報を得て、その後の学習や診療に活かすことができる。
2. 個々の事例が生命倫理・医療倫理上の問題であるか否かを判断・認識し、対応できる。
3. 患者の権利や医師の使命・義務・裁量権に基づいた判断ができる。
4. 個々の及び組織全体の医療安全に配慮した行動ができる。
5. 医療の現場におけるコミュニケーションの重要性を理解し、信頼関係を確立できる。
6. 患者と医師の良好な関係を築くために、患者の個別的背景を理解し、問題点を把握することができる

3. 授業内容(講義・実習項目)

1) 実習

(1) 診療所体験実習

2) 講義(実習も含む)内容

(1) 患者とのコミュニケーション、(2) 患者診察入門、(3) 介護・介助 (4) 多職種連携、(5) 地域医療、(6) ワークライフバランス、(7) 地域包括ケアシステム、(8) 医療倫理分野、(9) 歯学系分野、(10) 薬害問題、(11) 国家行政

3) 体験討論・レポート作成

診療所等の体験について討論し、レポートを作成する。

4. 教科書・教材・参考書

適宜LACSに掲載またはプリントを配付する。

5. 成績評価の方法・基準等

実習状況、出欠状況などを総合して評価する。講義・実習にはすべて出席すること。打刻(打刻可能な講義室の場合)、その他の方法による出席確認、レポートなどの提出物がある場合の提出期限までの提出・受理のどれが欠けても欠席とする。以上の基準で、授業回数の3分の1を超えて欠席した者は失格とする。

6. 事前・事後学修の内容

LACSに適宜掲載

7. 教員名

安武 亨、田中 邦彦、江川 亜希子、北山 素（先端医育センター）、
永田 康浩（地域包括ケア教育センター）、前田 隆浩（地域医療学）、
井口 茂（保健学科）、梅田 正博（周術期口腔管理センター）、
三串 伸哉（摂食嚥下リハビリテーションセンター）、高畠 英昭（リハビリテーション
部）、藤原 卓（歯学部）、吉村 篤利（歯学部）、伊東 昌子（メディカルワークライフバランスセンター）、
手嶋 無限（アイビー薬局）、篠崎 彰子（長崎県栄養士会）、貝沼 茂三郎（九州大学）、
秋野 公造（参議院議員）、坂上 祐樹（平成医療福祉グループ）、
斐 英洙（ハイズ株式会社）、板井 孝壱郎（宮崎大学）、永田 修一（桜町調剤薬局）、
吉田 穂波（神奈川県立保健福祉大学）、秋葉 悦子（富山大学）、間宮 清、
田口 円裕（厚生労働省医政局）、西澤 利夫（西澤国際特許事務所）

8. 備考

学外実習については、オリエンテーションを行うので実施要項に従う。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	E

医と社会Ⅲ

(3年次・通年)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	2	月	1	地域包括	地域包括ケアにおける医療の役割	地域包括ケア教育センター 永田 康浩	3講
4	2	月	2~3	地域包括	リハビリテーション総論	保健学科 井口 茂	3講
4	3	火	1~2	地域包括	口腔ケアに関して	周術期口腔管理センター 梅田 正博	3講
4	3	火	2~3	地域包括	摂食嚥下リハビリに関して	摂食嚥下リハビリテーションセンター 三串 伸哉	3講
4	4	水	1~2	地域包括	地域包括ケアにおける薬剤師の役割	アイビー薬局 手嶋 無限	2講
4	4	水	2~3	地域包括	医療と栄養	長崎県栄養士会 篠崎 彰子	2講
4	5	木	1	リハビリテーション	リハビリテーション概論(1)	リハビリテーション部 高島 英昭	2講
4	5	木	2	歯科疾患	う蝕(むし歯)について	歯学部 藤原 卓	2講
4	5	木	3	地域医療	漢方について	九州大学 貝沼 茂三郎	2講
4	9	月	1	地域医療	地域医療	参議院議員 秋野 公造	3講
4	9	月	2	人の行動と心理	行動科学(1)	先端医学センター 安武 亨	3講
4	9	月	3	地域医療	我が国の医療・介護制度について	平成医療福祉グループ 坂上 祐樹	3講
4	12	木	1	リハビリテーション	リハビリテーション概論(2)	リハビリテーション部 高島 英昭	4講
4	12	木	2	人の行動と心理	行動科学(2)	先端医学センター 安武 亨	4講
4	12	木	3	未定			4講
4	12	木	4	未定			4講
4	12	木	5	未定			4講
4	12	木	6	未定			4講
5	11	金	1	リハビリテーション	リハビリテーション概論(3)	リハビリテーション部 高島 英昭	4講
5	11	金	2	歯科疾患	歯周病について	歯学部 吉村 篤利	4講
5	11	金	4~6	Early Exposure	診療所実習の事前学習	地域包括ケア教育センター	4講
5	18	金	4~6	Early Exposure	診療所(1) /グループワーク	地域包括ケア教育センター	4講
5	25	金	4~6	Early Exposure	グループワーク /診療所(2)	地域包括ケア教育センター	4講
6	1	金	4~6	Early Exposure	実習のフィードバック・まとめ	地域包括ケア教育センター	4講
6	8	金	5	社会と医学・医療	矯正医療について	福岡矯正管区	4講
6	8	金	6	知的財産権	知的財産権(特許権、著作権など)について 知っておこう	西澤国際特許事務所 西澤 利夫	4講
7	23	月	3	医療経済	病院経営について	ハイズ株式会社 斐 英洙	3講
9	28	金	1~2	医歯学共修	医療倫理の基礎と実践 —DNAR・終末期を中心に—	宮崎大学 板井 孝孝郎	4講
9	28	金	3	医歯学共修	地域包括ケアシステムの構築と 医療介護連携の確保について	桜町調剤薬局 永田 修一	4講
10	5	金	1~6	ワークライフバランス	医師にとってのワークライフバランス	メディカルワークライフバランスセンター 伊東 昌子・吉田 穂波	4講・ チュートリアル室
10	19	金	1~2	医歯学共修	終末期医療における倫理と法 —医師の職業倫理に立脚した法の形成に向けて—	富山大学 秋葉 悦子	4講
10	19	金	3	医歯学共修	薬害問題(市販薬の薬害・サリドマイド)	間宮 清	4講
10	19	金	4~5	医歯学共修	医療安全や医療の質管理	歯学部 藤原 卓	4講
10	19	金	5~6	医歯学共修	技術系行政官としての業務 —国民の健康な生活の確保に貢献するために—	厚生労働省医政局 田口 円裕	4講
12	10	月	3	未定			3講

病理総論系

責任者	氏名 (教室)	下川 功 (病理学 (旧第一病理学))		
	電話番号	095-819-7051	e-mail	shimo@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月・水曜日 17:00~18:00 (電話で所在を確認すること)		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1
科目英語名	General Pathology		

1. 授業の概要及び位置づけ

病理学は疾病 (病気) の原因や病態を探求する学問である。病理総論では、まず疾病や病的現象について総体的に把握し理解する。人間に病気を起こす原因 (病因) や、それに対する生体の基本的な防御機構や反応を学び、それが組織や臓器にどのような形態的、機能的障害を与えるかを理解する。その上で、関連臓器や人体そのものに与える影響を考えていく。

2. 授業到達目標

病理学を正しく理解するためには、解剖学、生理学、生化学などの基礎教科の十分な知識が要求される。加えて、医学英語に習熟するために、英語の教科書を用いる。疾患名や重要な用語は、英語、日本語とも覚える。以下に挙げた教科書を原著のまま理解できる程度の能力と知識を到達目標とする。

3. 授業内容 (講義・実習項目)

講義項目：講義予定表を参照のこと。

4. 教科書・教材・参考書

Robbins Basic Pathology 9th edition Kumar V, et al Saunders 99.95 US\$

5. 成績評価の方法・基準等

病理総論筆記試験を行う。出席状況、レポートの提出の有無を含め、総合的に評価する。感染症、事故等やむをえない事情により定期試験を欠席した場合、追試験を行うことはある。原則として再試験は行わない。

6. 事前・事後学修の内容

授業項目に関連する解剖学、組織学、生理学等の知識を再確認しておくこと。推薦された教科書だけではなく、他の病理学の教科書を読み比べること。

7. 教員名

下川 功、森 亮一、林 洋子、朴 盛俊 (病理学)、原 英二 (非常勤講師 (大阪大学))、

8. ディプロマポリシー (レベルマトリクス) との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	C

病理総論系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	6	金	4	炎症	慢性炎症、炎症の組織形態	病理1・森	1講
4	6	金	5	炎症	炎症の定義と分類、急性炎症	病理1・森	1講
4	6	金	6	炎症	化学走性因子	病理1・森	1講
4	13	金	4	細胞傷害	傷害の原因・機序、傷害の型と形態、適応	病理1・下川	1講
4	13	金	5	特別講義	細胞老化シグナルによる発がん制御	大阪大学・原	1講
4	13	金	6	特別講義	細胞老化シグナルによる発がん制御	大阪大学・原	1講
4	16	月	1	組織の修復	再生、創傷治癒	病理1・森	2講
4	16	月	2	組織障害、炎症、修復	実習	病理1・下川、森、林、朴	2実
4	16	月	3	腫瘍総論	腫瘍の概念・定義・分類	病理1・森	2講
4	17	火	1	腫瘍総論	腫瘍の発育・進展、原因	病理1・森	1講
4	17	火	2	腫瘍各論	上皮性、非上皮性腫瘍	病理1・林	1講
4	17	火	4	腫瘍各論	実習	病理1・下川、森、林、朴	2実
4	17	火	5	循環障害	充血・うっ血、出血・凝固	病理1・下川	1講
4	17	火	6	循環障害	血栓・塞栓・梗塞	病理1・下川	1講
4	18	水	1	老化	老化と病態、その制御因子	病理1・下川	2講
4	18	水	2	老化	老化と病態、その制御因子	病理1・下川	2講
4	18	水	4	遺伝性疾患	遺伝子、染色体異常	病理1・下川	2講
4	18	水	5	小児の疾患	奇形、発達異常	病理1・下川	2講
4	18	水	6	感染症	感染症の一般病理学	病理1・下川	2講
4	20	金	4	免疫病理	自己免疫疾患、移植の病理	病理1・森	1講
4	20	金	5	環境と疾患	物理的、化学的傷害	病理1・森	1講
4	20	金	6	栄養障害	栄養障害による疾患	病理1・森	1講
4	23	月	1~3	試験			2講

薬理系

責任者	氏名 (教室)	有賀 純 (医科薬理学)		
	電話番号	095-819-7043	e-mail	aruga@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	水曜日 17:00～18:30		

対象年次・学期	3年次・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1
科目英語名	Medical Pharmacology		

1. 授業の概要及び位置づけ

薬理学は薬と生体の相互作用について研究する科学である。薬理学は疾患の治療体系の構築に密接に関わると同時に、解剖学、生理学、生化学、化学、情報科学などさまざまな周辺科学の進展に支えられ、貢献してきた。したがって、薬理学の講義・実習においては、薬についての知識を既習の臨床・基礎医学についての知識・経験に関連づけ、柔軟に応用が可能な知識体系を各自が構築することが求められる。講義においては、自ら問題点を見だし、解決していく能力を養うことを重視する。新薬の利害得失を勘案し、安全で最適な薬物療法を考える能力をもつ医師や研究者の育成を目的とする。

2. 授業到達目標

生体と薬物の相互作用について系統的に説明できる。
薬物の起源と性質、薬物開発の戦略について説明できる。
適切に取り扱いのもとに動物実験を行い、結果を評価することができる。

3. 授業内容 (講義・実習項目)

薬理学総論、及び臓器機能別薬物の作用機序並びに各病態における薬物応用理論、さらに医薬品創薬について講ずる。一部項目については実習を課す。

4. 教科書・教材・参考書

薬がみえる (vol. 1-4) 医療情報科学研究所 メディックメディア 3,600円/vol
NEW薬理学(第7版) 編者: 田中千賀子、加藤隆一、成宮周 南江堂 8,800円
イラストレイテッド薬理学 (原書6版)
編者: R. A. Harvey 監訳: 柳澤輝行、丸山敬 7,800円
ハーバード大学講義テキスト: 臨床薬理学 (原書3版)
編者: D. E. Golan、監訳: 渡邊 裕司 丸善 14,580円
Goodman & Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics(12th Ed)
編者: L. L. Brunton McGraw-Hill 20,385円

5. 成績評価の方法・基準等

試験は筆答形式で行い、実習レポート、課題レポート、授業内試験の評価を加えて総合的に評価する。100点満点中、60点以上の得点をもって合格とする。薬理学実習は、薬理学筆答試験受験のために必修である。実習を行い、実習レポートをすべて提出し、受理された者のみが、薬理学筆答試験を受験する資格を有する。

6. 事前・事後学修の内容

教科書・参考書などで予習し、かつ適応となる疾患の理解をしておくこと。
実習前には、配布される実習テキストを読んで予習しておくこと。

7. 教員名

有賀 純、中川 慎介、畑山 実、松永 隼人 (医科薬理学)

8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	A
II. 医学・医療に関する知識	S
III. 医療の実践	A
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	S

薬理系

(3年次・通年)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	6	金	1	薬理学総論 1	薬理学への導入・薬力学	薬理・有賀	1 講
4	6	金	2	薬理学総論 2	薬物受容体と細胞内情報伝達系	薬理・有賀	1 講
4	13	金	1	生理活性物質 1	カテコールアミン	薬理・有賀	1 講
4	13	金	2	末梢神経作用薬 1	アドレナリン作用薬	薬理・有賀	1 講
4	20	金	1	末梢神経作用薬 2	抗アドレナリン薬	薬理・有賀	1 講
4	20	金	2	生理活性物質 2	アセチルコリン	薬理・有賀	1 講
4	27	金	1	末梢神経作用薬 3	コリン薬・抗コリン薬	薬理・有賀	1 講
4	27	金	2	生理活性物質 3	ペプチド	薬理・中川	1 講
5	18	金	1	生理活性物質 4	セロトニン・ヒスタミン	薬理・松永	1 講
5	18	金	2	生理活性物質 5	アミノ酸	薬理・畑山	1 講
5	25	金	1	末梢神経作用薬 4	自律神経作用薬・神経筋作用薬	薬理・有賀	3 講
5	25	金	2	末梢神経作用薬 5	局所麻酔薬	薬理・有賀	3 講
6	1	金	1	生理活性物質 6	エイコサノイド・サイトカイン	薬理・有賀	1 講
6	1	金	2	炎症免疫薬理学 1	鎮痛薬・解熱薬	薬理・有賀	1 講
6	15	金	1	炎症免疫薬理学 2	抗炎症薬・副腎皮質ステロイド	薬理・有賀	1 講
6	15	金	2	薬理学総論 3	薬物動態学・薬物相互作用	薬理・有賀	1 講
6	22	金	1	薬理学総論 4	疾患実験動物モデル	薬理・有賀	1 講
6	22	金	2	薬理学総論 5	臨床試験・実験動物の取り扱い	薬理・有賀	1 講
6	28	木	4~6	薬理学実習 1	1) 血圧に作用する薬物 2) 腸管と気管支に作用する薬物 3) 中枢神経系に作用する薬物 4) カフェインの作用	薬理学教員	実1・2
6	29	金	1	感染症治療薬 1	抗菌薬	薬理・有賀	1 講
6	29	金	2	感染症治療薬 2	抗真菌薬・抗ウイルス薬	薬理・有賀	1 講
6	29	金	4~6	薬理学実習 2	1) 血圧に作用する薬物 2) 腸管と気管支に作用する薬物 3) 中枢神経系に作用する薬物 4) カフェインの作用	薬理学教員	実1・2
7	12	木	4~6	薬理学実習 3	1) 血圧に作用する薬物 2) 腸管と気管支に作用する薬物 3) 中枢神経系に作用する薬物 4) カフェインの作用	薬理学教員	実1・2
7	13	金	4~6	薬理学実習 4	1) 血圧に作用する薬物 2) 腸管と気管支に作用する薬物 3) 中枢神経系に作用する薬物 4) カフェインの作用	薬理学教員	実1・2
7	20	金	1	腫瘍薬理学 1	抗腫瘍薬	薬理・畑山	2 講
7	20	金	2	腫瘍薬理学 2	抗腫瘍性分子標的薬	薬理・畑山	2 講
7	30	月	4~6	試験			4 講

放射線医学

責任者	氏名 (教室)	上谷 雅孝 (放射線医学 (放射線診断治療学))		
	電話番号	095-819-7353	e-mail	uetani@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日 10:00~12:00		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	0.5
科目英語名	Radiology		

1. 授業の概要及び位置づけ

放射線医学は、放射線診断学、核医学および放射線治療学から成り立っている。本講義では各臓器疾患に共通する内容として、核医学検査と放射線治療、放射線学的手技を応用した治療 (interventional radiology) について学習する。各臓器毎の放射線診断 (画像診断) については、それぞれの臓器別の講義で行われる。

2. 授業到達目標

- 1 核医学検査の種類と基本的原理、検査の特徴と適応、診断の要点を理解する。
- 2 放射線治療の種類と基本的原理、特徴と適応、副作用について理解する。
- 3 IVRの種類、手技の実際、適応について理解する。

3. 授業内容 (講義・実習項目)

核医学検査 2コマ、放射線診断 2コマ、IVR 1コマ

4. 教科書・教材・参考書

標準放射線医学 (第7版) 西谷 弘 他編 医学書院 10,500円

5. 成績評価の方法・基準等

試験にて60%以上の得点率にて合格とする。

6. 事前・事後学修の内容

画像診断や放射線治療の理解は、各疾患の病態生理・病理学等の理解が基本となる。これまで学習してきた各臓器・領域の主な疾患について復習しておくこと。

7. 教員名

工藤 崇 (原研放射)、山崎 拓也、江川 亜希子、末吉 英純 (放射線科)

8. ディプロマポリシー (レベルマトリクス) との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	D
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	D
V. 地域医療・社会医学	D
VI. 科学的探究	D

放射線医学

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	19	木	1	放射線医学	核医学	原研放射、工藤 崇	3 講
4	19	木	2	放射線医学	核医学	原研放射、工藤 崇	3 講
4	19	木	4	放射線医学	放射線治療	放射線科、江川亜希子	3 講
4	19	木	5	放射線医学	放射線治療	放射線科、山崎拓也	3 講
4	19	木	6	放射線医学	IVR	放射線科、末吉英純	3 講
4	24	火	1~2	試験		放射線科、末吉英純	4 講

基礎医学TBL

責任者	氏名 (教室)	西田 教行 (感染分子解析学)		
	電話番号	095-819-7059	e-mail	noribaci@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	木曜日 16:30~18:30		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Team-based learning		

1. 授業の概要及び位置づけ

実際の症例から問題点を抽出し、学習目標を設定し、自ら学ぶ。すでに学んだ基礎医学全般の知識を使えるものにするために知識の整理を行う。医学的知識を用いて実際の患者の抱える種々の問題を理解し、解決するために医師が取った行動、判断について批判的に学ぶ。必要な情報・知識を収集する能力を高め、実践での知識の応用力を養う。同時に病態の理解を具体例の検討をすることで理解を深め、解剖、生理、生化学、組織学、免疫学、微生物学などの基礎医学的知識と用語の復習と再確認を必要に応じて行う。

2. 授業到達目標

実際の症例から問題点を抽出できる。学習目標を設定し、自ら学ぶことができる。解剖、生理、生化学、組織学、免疫学、微生物学などの基礎医学的知識の応用できる。

3. 授業内容 (講義・実習項目)

実際の患者のシナリオを入院まで、入院時、入院後と時系列にて提示し、それぞれを読み解く作業をグループワークとして行う。学習課題については自己学習し、グループ内で情報を共有し、議論を深める。授業で自らの考えを発表し、他のグループと意見交換を行う。議論に積極的に参加し、チームワーク医療における個人の役割を理解する。

4. 教科書・教材・参考書

ハワイ大学式PBLマニュアル 黒川 清 監修 羊土社 3,999円

5. 成績評価の方法・基準等

出席状況、セルフポートフォリオ、課題レポートの総合判断で評価する。レポートは基準に満たない場合、再提出を求めることがある。

6. 教員名

西田 教行 (感染分子解析学)、永山 雄二 (原研分子)、佐藤 克也 (保健学科)、田中 邦彦 (先端医育センター)、池田 裕明 (腫瘍医学)、田口 謙 (感染分子解析学)

7. ディプロマポリシー (レベルマトリクス) との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	S
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	A
IV. コミュニケーション技能	S
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	F

基礎医学TBL

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	2	月	4	ガイダンス	ガイダンス	西田教行 (感染分子) 池田裕明 (腫瘍医学) 永山雄二 (原研分子) 佐藤克也 (保健学科) 田中邦彦 (先端医育センター) 田口謙 (感染分子)	専齋・ボードイン
4	2	月	5	TBL	症例1提示 (シナリオ1)	同上	専齋・ボードイン
4	2	月	6	TBL	症例1提示 (シナリオ2)	同上	専齋・ボードイン
4	9	月	4	TBL	発表・討論	同上	専齋・ボードイン
4	9	月	5	TBL	症例1提示 (シナリオ3)	同上	専齋・ボードイン
4	9	月	6	TBL	症例1提示 (シナリオ4)	同上	専齋・ボードイン
4	16	月	4	TBL	発表・討論	同上	専齋・ボードイン
4	16	月	5	TBL	症例1提示 (シナリオ5)	同上	専齋・ボードイン
4	16	月	6	TBL	症例1提示 (シナリオ6)	同上	専齋・ボードイン
4	23	月	4	TBL	発表・討論	同上	専齋・ボードイン
4	23	月	5	TBL	発表・討論	同上	専齋・ボードイン
4	23	月	6	TBL	発表・討論	同上	専齋・ボードイン
5	30	水	1	TBL	症例2提示 (シナリオ1)	同上	1講、実1・2、専齋
5	30	水	2	TBL	症例2提示 (シナリオ1)	同上	1講、実1・2、専齋
5	30	水	3	TBL	症例2提示 (シナリオ1)	同上	1講、実1・2、専齋
6	7	木	1	TBL	症例2提示 (シナリオ2)	同上	1講、実1・2、専齋
6	7	木	2	TBL	症例2提示 (シナリオ2)	同上	1講、実1・2、専齋
6	7	木	3	TBL	症例2提示 (シナリオ2)	同上	1講、実1・2、専齋
6	11	月	1	TBL	症例2提示 (シナリオ3)	同上	ボンペ、実1・2、専齋
6	11	月	2	TBL	症例2提示 (シナリオ3)	同上	ボンペ、実1・2、専齋
6	11	月	3	TBL	症例2提示 (シナリオ3)	同上	ボンペ、実1・2、専齋
6	20	水	1	TBL	発表・討論	同上	ボードインホール
6	20	水	2	TBL	発表・討論	同上	ボードインホール
6	20	水	3	TBL	発表・討論	同上	ボードインホール

循環器系

責任者	氏名 (教室)	前村 浩二 (循環器内科学)		
	電話番号	095-819-7288	e-mail	maemura@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30~17:30		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	4.5
科目英語名	Cardiovascular Medicine		

1. 授業の概要及び位置づけ

本講は循環器疾患全般の概説を、主に診断・検査・治療といった臨床的側面から行う。各学生は自ら主体的に学習するアクティブラーニングの精神をもって授業に臨む必要があり、本講は学生が行うアクティブラーニングでの不足を補うための授業と位置づけられる。放射線、病理、薬理における循環器関連分野の授業も並行して行われるため、より多面的に多角的に循環器疾患の理解が進むことを期待する。

2. 授業到達目標

循環器疾患の病因と病態を理解した上で、診察法、検査法、治療法について系統的に効率よく理解することを目標とする。アクティブラーニングでの予習が必要である。単に知識だけを学習するとどまらず、循環器疾患特有の即座に対応せねばならない判断力、患者さんに対する倫理観を踏まえての対話・表現力などを習得する。

3. 授業内容 (講義・実習項目)

講義内容は心臓血管系の発生、形態および機能、循環器検査法、循環器診断学、心不全、先天性心疾患、心臓弁膜症、心筋症、心内膜疾患、心膜疾患、心臓腫瘍、循環器感染症、虚血性心疾患、肺循環障害、動脈硬化、大動脈疾患、中・小動脈疾患、静脈疾患、不整脈、高血圧、低血圧とする。

近年の循環器疾患の進歩は目覚ましく、従来のように心行動態を中心とした理解のみでは不十分である。講義内容はその領域の専門家に重要事項がもれないようにお願いし、しかも簡潔に要領よく講義して疾患および病態の本質が正確に理解できるように努める。また、講義内容があまり専門的にならず基本的事項を十分に理解できるようにすることを原則とする。

4. 教科書・教材・参考書

内科学 (第11版) 矢崎 義雄 監修 朝倉書店 24,800円
 新臨床内科学 (第9版) 高久 史磨 他監修 医学書院 22,000円
 循環器内科学 水野 杏一 他編 丸善出版 4,900円
 HARRISON'S PRINCIPLES OF INTERNAL MEDICINE, 19th Edition
 Longo, et. al McGraw-Hill 39,840円
 Braunwald's Heart Disease: Textbook of Cardiovascular Medicine, 11th Edition
 Mann et. al 南江堂 40,813円
 標準小児科学 第8版 内山 聖 監修 医学書院 8,800円
 週周期循環異常 中澤 誠 編 メジカルビュー社 5,500円
 新目で見える循環器病シリーズ13-先天性心疾患- 中澤 誠 編 メジカルビュー社 9,500円

5. 成績評価の方法・基準等

講義終了後に試験を施行して評価する。試験100%であるが、国家試験形式では評価できない修得度は記述式問題で評価する。本論 (循環器内科、循環生理、小児科、心臓血管外科)、放射線、病理、薬理の各分野を総合して評価し、60%以上を合格とする。ただし、総合点が60%以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。

6. 事前・事後学修の内容

循環器学教科書および診断学教科書を用いて講義の前に予め予習しておくこと。

7. 教員名

前村 浩二、河野 浩章、小出 優史、池田 聡司、深江 学芸、恒任 章、古賀 聖士、石松 卓、土居 寿志、吉牟田 剛、米倉 剛、江口 正倫、荒川 修司（循環器内科）、蒔田 直昌（分子生理学）、蓮把 朋之（小児科）、江石 清行（心臓血管外科）、松丸 一朗（心臓血管外科）、末吉 英純（放射線科）、工藤 崇（アイソトープ診断治療）、中川 慎介（医科薬理学）、下川 功、森 亮一、林 洋子、朴 盛浚（病理学）、福岡 順也、二口 充、黒田 揮志夫（病理診断科）、瀬戸 信二、山近 史郎（井上病院）、芦澤 直人（長崎原爆病院）、本村 秀樹、濱脇 正好（長崎医療センター）、坂本 一郎（長崎みなとメディカルセンター）

8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	A
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	D
VI. 科学的探究	C

循環器系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	24	火	5	循環器総論	総論・症候学	循環器内科・前村	4講
4	24	火	6	検査	心エコー図	循環器内科・恒任	4講
4	25	水	1	循環器総論	心臓血管の構造と機能(1)	分子生理・蒔田	4講
4	25	水	2	循環器総論	心臓血管の構造と機能(2)	分子生理・蒔田	4講
4	25	水	4	(病理)循環病理	循環器・心・非虚血性疾患(講義)(1)	1病・下川	1講
4	25	水	5	(病理)循環病理	循環器・心・非虚血性疾患(講義)(2)	1病・下川	1講
4	25	水	6	(病理)循環病理	循環器・心・非虚血性疾患(講義)(3)	1病・下川、森、林、朴	CBT室
4	26	木	1	心電図	心電図の基本(1)	循環器内科・深江	4講
4	26	木	2	心電図	心電図の基本(2)	循環器内科・深江	4講
4	26	木	3	検査	心臓カテーテル検査	循環器内科・江口	4講
4	26	木	4	(病理)循環病理	循環器・心・非虚血性疾患(講義)(4)	1病・下川	1講
4	26	木	5	(病理)循環病理	循環器・心・非虚血性疾患(講義)(5)	1病・下川	1講
4	26	木	6	(病理)循環病理	循環器・心・非虚血性疾患(講義)(6)	1病・下川、森、林、朴	CBT室
5	1	火	1	心不全	急性心不全	循環器内科・小出	3講
5	1	火	2	心不全	慢性心不全	循環器内科・小出	3講
5	1	火	4	循環器画像診断	大血管、末梢血管の画像診断	放射線科・末吉	2講
5	1	火	5	(薬理)循環薬理1	降圧薬(1)	薬理・中川	2講
5	1	火	6	(薬理)循環薬理2	降圧薬(2)	薬理・中川	2講
5	2	水	1	不整脈	上室性不整脈、WPW症候群	循環器内科・土居	4講
5	2	水	2	不整脈	房室ブロック、洞不全症候群	循環器内科・土居	4講
5	2	水	4	(病理)循環病理	肺における血管・循環不全・血管性病変(1)	2病・福岡	CBT室
5	2	水	5	(病理)循環病理	肺における血管・循環不全・血管性病変(2)	2病・福岡	CBT室
5	2	水	6	(病理)循環病理	肺における血管・循環不全・血管性病変(3)	2病・福岡	CBT室
5	7	月	4	不整脈	心室性不整脈、心臓突然死	循環器内科・石松	4講
5	7	月	5	先天性心疾患	非チアノーゼ群	非常勤(小)・本村	4講
5	7	月	6	先天性心疾患	チアノーゼ群	小児科・蓮把	4講
5	8	火	1	先天性心疾患	先天性心疾患の外科	非常勤(心)・濱脇	4講
5	8	火	2	先天性心疾患	成人にみられる先天性心疾患	非常勤(循)・山近	4講
5	8	火	4	循環器画像診断	循環器系の核医学検査	アイソトープ診断治療・工藤	2講
5	8	火	5	(薬理)循環薬理3	虚血性心疾患治療薬	薬理・中川	2講
5	8	火	6	(薬理)循環薬理4	心不全治療薬	薬理・中川	2講
5	9	水	1	肺循環	肺血栓塞栓症、肺高血圧症、肺性心	循環器内科・池田	4講
5	9	水	2	不整脈	不整脈治療、デバイス	循環器内科・石松	4講
5	9	水	4	(病理)循環病理	循環不全とがん(1)	2病・二口	CBT室
5	9	水	5	(病理)循環病理	循環不全とがん(2)	2病・二口	CBT室
5	9	水	6	(病理)循環病理	脈管・血管炎(講義・実習)	2病・黒田	CBT室
5	10	木	4	(放射線)血管系のIVR	大動脈や末梢血管の血管内治療について	非常勤(放)・坂本	3講
5	10	木	5	(病理)循環病理	脈管・硬化/解離/瘤(講義・実習)	2病・黒田	CBT室
5	10	木	6	(病理)循環病理	脈管・奇形/腫瘍(講義・実習)	2病・黒田	CBT室
5	14	月	4	心筋疾患	心筋症・心筋炎(1)	非常勤(循)・芦澤	4講
5	14	月	5	心筋疾患	心筋症・心筋炎(2)	非常勤(循)・芦澤	4講
5	14	月	6	心筋疾患	心筋症・心筋炎(3)	非常勤(循)・芦澤	4講
5	15	火	1	動静脈疾患	動脈・静脈疾患の内科	循環器内科・池田	4講
5	15	火	2	動静脈疾患	動脈・静脈疾患の外科	心外科・松丸	4講

循環器系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
5	15	火	4	心電図	心電図判読の実際	循環器内科・荒川	2講
5	15	火	5	(薬理) 循環薬理 5	利尿薬	薬理・中川	2講
5	15	火	6	(薬理) 循環薬理 6	抗不整脈薬	薬理・中川	2講
5	16	水	1	心電図	心電図演習	循環器内科・荒川	4講
5	16	水	2	心膜・心内膜・腫瘍	心膜炎、感染性心内膜炎、心臓腫瘍	循環器内科・吉牟田	4講
5	21	月	4	弁膜疾患	心エコー・手術適応	非常勤(循)・山近	4講
5	21	月	5	弁膜疾患	弁膜症(1)	非常勤(循)・瀬戸	4講
5	21	月	6	弁膜疾患	弁膜症(2)	非常勤(循)・瀬戸	4講
5	22	火	1	弁膜疾患	弁膜症の外科(1)	心外科・江石	4講
5	22	火	2	弁膜疾患	弁膜症の外科(2)	心外科・江石	4講
5	23	水	1	虚血性心疾患	狭心症	循環器内科・米倉	4講
5	23	水	2	虚血性心疾患	心筋梗塞	循環器内科・米倉	4講
5	28	月	4	虚血性心疾患	虚血性心疾患の外科	心外科・江石	4講
5	28	月	5	虚血性心疾患	狭心症・心筋梗塞の治療	循環器内科・古賀	4講
5	28	月	6	小児心疾患	リウマチ熱、川崎病	小児科・蓮把	4講
5	29	火	1	血圧異常	本態性高血圧症	循環器内科・河野	3講
5	29	火	2	血圧異常	二次性高血圧症、低血圧	循環器内科・河野	3講
5	31	水	1	TBL	循環器系TBL	循環器内科・米倉	3講
5	31	水	2	TBL	循環器系TBL	循環器内科・米倉	3講
6	4	月	4	循環器画像診断	心臓の画像診断	非常勤(放)・坂本	4講
6	4	月	5	TBL	循環器系TBL	循環器内科・石松	4講
6	4	月	6	TBL	循環器系TBL	循環器内科・石松	4講
6	11	月	4~6	試験			4講

血液・リンパ系

責任者	氏名 (教室)	宮崎 泰司 (原研内科 (血液内科学))		
	電話番号	095-819-7109	e-mail	y-miyaza@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火曜日 17:00～17:30		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Hematopoietic and lymphoid system		

1. 授業の概要及び位置づけ

骨髄とリンパ節の構造、そこで産生される造血細胞（赤血球、白血球[顆粒球・リンパ球]、血小板）の形態、機能、産生機序、および止血機構を理解する。これらの基本的理解に立って、各血液疾患、リンパ系疾患、止血・線溶機構異常による疾患の病因と病態、臨床事項について理解する。臨床実習において実際に血液疾患を抱えた患者の病態を理解し、正確な診断するために必須の知識である。

2. 授業到達目標

正常血球の認識に基づき血液細胞の産生や機能、凝固止血機構を説明できる。主要血液疾患の病因と病態、臨床事項（症状、所見、診断と治療）を説明できる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

血液の構成成分、骨髄と血球産生機序を学習し、血球形態理解のために、顕微鏡実習を行う。次に赤血球の異常、造血幹細胞異常、顆粒球の異常、リンパ球および免疫細胞の異常、止血機構と出血性素因、小児の血液疾患、血液疾患の治療の各項目について講義を行う。

4. 教科書・教材・参考書

LACSにあらかじめ資料を提示する。各担当教官より必要に応じて資料が配布される。
 講義録 血液・造血器疾患学 小澤敬也 他 メジカルビュー社 5,500円
 カラーテキスト血液病学 (参考書) 木崎 昌弘 他 中外医学社 26,000円
 三輪 血液病学 (参考書) 浅野茂隆 他 文光堂 45,000円
 血液専門医テキスト (参考書) 日本血液学会編集 南江堂 15,000円
 臨床に直結する血栓止血学 朝倉 英策 他 中外医学社 7,600円

5. 成績評価の方法・基準等

毎回、学生証によるカード出席の確認を行う。実習ではレポートを提出する。出席率2/3以上の者は定期試験の受験資格を有する。内科・小児血液についての定期試験と実習レポートをあわせて評価する。合計60点以上を合格とする。

また、本論、病理、薬理の各分野を総合して評価するが、総合点が60点以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。

6. 事前・事後学修の内容

LACSの資料にて予習することが望ましい。

7. 教員名

宮崎 泰司、波多 智子、今泉 芳孝、澤山 靖、安東 恒史、佐藤 信也、
 糸永 英弘 (原研内科)、
 岡田 雅彦 (小児科)、新野 大介 (病理学)、中川 慎介 (薬理)

8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	D
VI. 科学的探究	C

血液・リンパ系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
5	7	月	1	血液形態実習	正常末梢血液細胞	原研内科、宮崎泰司	実習室第2
5	7	月	2	血液形態実習	正常骨髓細胞	原研内科、宮崎 泰司	実習室第2
5	10	木	1	血液学総論	造血総論	原研内科、宮崎 泰司	4講
5	10	木	2	白血球疾患（1）	白血球系疾患	原研内科、波多 智子	4講
5	10	木	3	白血球疾患（2）	慢性骨髄性白血病、骨髄増殖腫瘍	原研内科、糸永 英弘	4講
5	14	月	1	白血球疾患（3）	急性白血病	原研内科、波多 智子	4講
5	14	月	2	白血球疾患（4）	骨髄異形成症候群	原研内科、波多 智子	4講
5	16	水	4	病理診断学	血液・リンパ系・腫瘍	病理診断、新野 大介	CBT室
5	16	水	5	病理診断学	血液・リンパ系・腫瘍	病理診断、新野 大介	CBT室
5	16	水	6	病理診断学	血液・リンパ系・腫瘍	病理診断、新野 大介	CBT室
5	17	木	1	リンパ系疾患（1）	リンパ系総論	原研内科、今泉 芳孝	4講
5	17	木	2	リンパ系疾患（2）	反応性リンパ系疾患・脾疾患	原研内科、今泉 芳孝	4講
5	17	木	4	リンパ系疾患（3）	悪性リンパ腫	原研内科、今泉 芳孝	4講
5	17	月	5	出血性・血栓性疾患（1）	止血機構	原研内科、佐藤 信也	4講
5	17	月	6	出血性・血栓性疾患（2）	血小板異常・凝固異常	原研内科、佐藤 信也	4講
5	21	月	1	赤血球疾患（1）	赤血球総論・貧血総論	原研内科、安東 恒史	4講
5	21	月	2	赤血球疾患（2）	鉄欠乏性貧血・二次性貧血	原研内科、安東 恒史	4講
5	22	火	4	出血性・血栓性疾患（3）	DIC・血栓性疾患	原研内科、佐藤 信也	4講
5	22	火	5	出血性・血栓性疾患（4）	抗凝固・抗血小板薬	薬理、中川 慎介	4講
5	23	水	4	病理診断学	血液・リンパ系・非腫瘍	病理診断、新野 大介	CBT室
5	23	水	5	病理診断学	血液・リンパ系・非腫瘍	病理診断、新野 大介	CBT室
5	23	水	6	病理診断学	血液・リンパ系・非腫瘍	病理診断、新野 大介	CBT室
5	24	木	1	リンパ系疾患（4）	慢性リンパ性白血病、成人T細胞白血病	原研内科、今泉 芳孝	4講
5	24	木	2	リンパ系疾患（5）	血漿蛋白質の異常	原研内科、今泉 芳孝	4講
5	24	木	4	赤血球疾患（3）	巨赤芽球性貧血・溶血性貧血	原研内科、安東 恒史	4講
5	24	木	5	赤血球疾患（4）	再生不良性貧血・PNH	原研内科、安東 恒史	4講
5	24	木	6	小児血液（1）	小児貧血（溶血性貧血、Fanconi貧血など）	小児科、岡田 雅彦	4講
5	28	月	1	小児血液（2）	好中球機能と先天異常、出血性素因	小児科、岡田 雅彦	4講
5	28	月	2	小児血液（3）	悪性新生物（小児白血病など）	小児科、岡田 雅彦	4講
5	31	木	4~5	TBL	血球減少症	原研内科、波多 智子	4講
5	31	木	6	血液疾患の治療	造血幹細胞移植	原研内科、澤山 靖	4講
6	4	月	1~2	TBL	リンパ系疾患	原研内科、今泉 芳孝	4講
6	7	木	4~6	試験			4講

呼吸器系

責任者	氏名 (教室)	迎 寛 (内科学第二 (呼吸器内科))		
	電話番号	095-819-7271	e-mail	hmukae@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火曜日 9:00~17:00		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Respiratory Diseases		

1. 授業の概要及び位置づけ

正常呼吸器系の解剖と生理の知識をもとに、各呼吸器系疾患の病態、診断、治療方法を理解する。

2. 授業到達目標

- (1) 正常呼吸器系の構造と機能を説明できる。
- (2) 各呼吸器疾患の病態について説明できる。
- (3) 各呼吸器疾患の診断について説明できる。
- (4) 各呼吸器疾患の治療について説明できる。

3. 授業内容 (講義・実習項目)

正常呼吸器系の構造・機能を基本として各疾患の病態について学ぶ。さらに、内科、外科、放射線学的立場より疾患の症候、診断方法を理解し、疾患に応じた内科および外科的治療について学ぶ。

4. 教科書・教材・参考書

ガイドラインをふまえた成人市中肺炎診療の実際 河野 茂 編 医学書院 4,830円
レジデントのための呼吸器疾患診療マニュアル (第2版)

河野 茂、早田 宏 編 医学書院 4,700円

咳漱に関するガイドライン第2版 咳漱に関するガイドライン第2版作成委員会

(委員長、河野 茂) 日本呼吸器学会 3,000円

臨床腫瘍学 日本臨床腫瘍学会 編 癌と化学療法社 25,000円

呼吸器外科テキスト 日本呼吸器外科学会 編 南江堂 13,000円

新版：胸部単純X線診断 林 邦昭、中田 肇 編 秀潤社 4,800円

胸部単純X線アトラス vol.1肺 芦澤 和人 編著 ベクトル・コア 4,500円

胸部単純X線アトラス vol.2縦隔、胸膜他 芦澤 和人 編著 ベクトル・コア 4,300円

5. 成績評価の方法・基準等

定期考査を90%、アクティブラーニングは全体の10%として評価するが、正当な理由なく全授業時間の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。定期考査は授業時間に応じて各分野 (内科・外科・放射線科・病理) から出題する。合計60点以上を合格とする。但し、合計60点以上であっても、各分野の得点はその分野で5割程度に満たない場合は不合格となる。

6. 事前・事後学修の内容

すでに履修した正常呼吸器系の解剖と生理の項目を復習しておく。

7. 教員名

迎 寛、福島 千鶴、尾長谷 靖、坂本 憲穂、宮崎 泰可、石本 裕士、今村 圭文、山本 和子、西條 知見、山口 博之、中島 章太 (呼吸器内科)、永安 武、松本 桂太郎、宮崎 拓郎、土谷 智史、畑地 豪 (腫瘍外科)、泉川 公一 (臨床感染症学)、芦澤 和人 (臨床腫瘍学)、(腫瘍外科)、早田 宏 (佐世保市総合医療センター)

8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	A
II. 医学・医療に関する知識	S
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	A
VI. 科学的探究	A

呼吸器系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
6	6	水	5	(病理) 呼吸器病理	呼吸器(各論的疾患概論)	原研病理・三浦	1 講
6	6	水	6	(病理) 呼吸器病理	呼吸器(各論的疾患概論)	原研病理・三浦	1 講
6	13	水	4	(病理) 呼吸器病理	呼吸器(各論的疾患概論)	原研病理・中島	1 講
6	13	水	5	(病理) 呼吸器病理	呼吸器(各論的疾患概論)	原研病理・中島	1 講
6	13	水	6	(病理) 呼吸器病理	呼吸器(各論的疾患概論)	原研病理・中島	1 講
6	14	木	1	呼吸器画像診断	画像診断総論(1)	臨床腫瘍学・芦澤 和人	4 講
6	14	木	2	呼吸器画像診断	画像診断総論(2)	臨床腫瘍学・芦澤 和人	4 講
6	14	木	3	(放射線)	画像診断総論(3)	臨床腫瘍学・芦澤 和人	4 講
6	18	月	1	びまん性肺疾患	びまん性肺疾患(1)	呼吸器内科・坂本 憲徳	4 講
6	18	月	2	びまん性肺疾患	びまん性肺疾患(2)	呼吸器内科・中島 章太	4 講
6	19	火	5	(病理) 呼吸器病理	呼吸器・肺癌(講義・実習)	臨床病理学・福岡	CBT室
6	19	火	6	(病理) 呼吸器病理	呼吸器・肺癌(講義・実習)	臨床病理学・福岡	CBT室
6	20	水	4	(病理) 呼吸器病理	呼吸器・肺癌(講義・実習)	臨床病理学・福岡	CBT室
6	20	水	5	(病理) 呼吸器病理	呼吸器・肺癌(講義・実習)	臨床病理学・福岡	CBT室
6	20	水	6	(病理) 呼吸器病理	呼吸器・肺癌(講義・実習)	臨床病理学・福岡	CBT室
6	21	木	1	呼吸器外科	肺の外科(1)	腫瘍外科・永安 武	4 講
6	21	木	2	呼吸器外科	肺の外科(2)	腫瘍外科・永安 武	4 講
6	21	木	3	呼吸器感染症	呼吸器感染症総論	臨床感染症学・泉川 公一	4 講
6	22	金	5	呼吸器腫瘍	肺癌、良性腫瘍、放射線肺臓炎	呼吸器内科・山口 博之	4 講
6	22	金	6	呼吸器腫瘍	胸膜と胸壁腫瘍、縦隔腫瘍	呼吸器内科・山口 博之	4 講
6	25	月	1	呼吸器画像診断	画像診断各論(1)	臨床腫瘍学・芦澤 和人	4 講
6	25	月	2	呼吸器画像診断	画像診断各論(2)	臨床腫瘍学・芦澤 和人	4 講
6	26	火	5	(薬理) 呼吸器系に作用する薬	喘息治療薬、COPD治療薬、鎮咳薬、去痰薬	医科薬理 松永隼人	1 講
6	26	火	6	(放射線)	画像診断各論(3)	臨床腫瘍学・芦澤 和人	1 講
6	27	水	4	(病理) 呼吸器病理	呼吸器・びまん性肺疾患	臨床病理学・福岡	CBT室
6	27	水	5	(病理) 呼吸器病理	呼吸器・びまん性肺疾患	臨床病理学・福岡	CBT室
6	27	水	6	(病理) 呼吸器病理	呼吸器・間質性肺炎	臨床病理学・福岡	CBT室
6	28	木	1	びまん性肺疾患	びまん性肺疾患(3)	呼吸器内科・石本 裕士	4 講
6	28	木	2	呼吸器外科	胸壁・胸膜・横隔膜の外科	腫瘍外科・永安 武	4 講
6	28	木	3	呼吸器外科	外科診断技術・周術期管理・手術様式	腫瘍外科・松本 桂太郎	4 講
7	2	月	1	呼吸器外科	胸部外傷	腫瘍外科・畑地 豪	4 講
7	2	月	2	呼吸器感染症	院内肺炎、医療・介護関連肺炎	呼吸器内科・今村 圭文	4 講
7	5	木	1	呼吸器病学総論	構造と疾患	呼吸器内科・迎 寛	3 講
7	5	木	2	びまん性肺疾患	特発性間質性肺炎	呼吸器内科・迎 寛	3 講
7	5	木	3	呼吸器画像診断	肺の外科(3)	腫瘍外科・宮崎 拓郎	3 講

呼吸器系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
7	6	金	1	呼吸器画像診断	画像診断各論(4)	臨床腫瘍学・芦澤 和人	4講
7	6	金	2	呼吸器画像診断	画像診断各論(5)	臨床腫瘍学・芦澤 和人	4講
7	9	月	1	呼吸器感染症	気道感染症	呼吸器内科・山本 和子	3講
7	9	月	2	呼吸器感染症	結核、非結核性抗酸菌症	呼吸器内科・西條 知見	3講
7	10	火	5	呼吸器腫瘍	分子標的薬総論	呼吸器内科・非常勤 早田 宏	4講
7	10	火	6	閉塞性・職業性肺疾患	COPD、塵肺など	呼吸器内科・福島 千鶴	4講
7	12	木	1	呼吸器感染症	市中肺炎、肺化膿症	呼吸器内科・迎 寛	4講
7	12	木	2	呼吸器感染症	日和見感染症	臨床感染症学・宮崎 泰可	4講
7	12	木	3	呼吸生理	呼吸性酸塩基平衡異常と肺による代償機能	呼吸器内科・尾長谷 靖	4講
7	13	金	1	呼吸器外科	縦隔の外科(1)	腫瘍外科・土谷 智史	4講
7	13	金	2	呼吸器外科	縦隔の外科(2)	腫瘍外科・土谷 智史	4講
7	19	木	1	アレルギー性肺疾患	気管支喘息	呼吸器内科・尾長谷 靖	4講
7	19	木	2	内科予備	内科予備	内科予備	4講
7	19	木	3	外科予備	外科予備	外科予備	4講
7	23	月	1	TBL・呼吸器内科総括	好酸球性肺疾患/まとめと復習	呼吸器内科・尾長谷 靖	4講
7	23	月	2	TBL・呼吸器内科総括	まとめと復習	呼吸器内科・尾長谷 靖	4講
7	26	木	4~6	試験			4講

腎泌尿器系

責任者	氏名 (教室)	酒井 英樹 (腎泌尿器病態学 (泌尿器科学))		
	電話番号	095-819-7340	e-mail	hsakai@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火曜日 16:00~17:00		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Nephro-urology		

1. 授業の概要及び位置づけ

小児から高齢者まで、すべての年齢層を対象にした腎・尿路系疾患の病態、診断および治療を理解する。

2. 授業到達目標

- 1) 腎・泌尿器の構造と機能を理解し、異常所見を識別できる—特に腎の生理と排尿の生理を理解することが重要である。
- 2) 腎・泌尿器系疾患の主要症候を理解し、鑑別疾患を挙げることができる。
- 3) 腎・泌尿器系の検査法を理解し、診断へ応用できる。
- 4) 腎・泌尿器科の病理検査を理解し、治療法選択や予後との関連を説明できる。
- 5) 各疾患の治療法を概説できる。また、小児と成人の差違、内科的あるいは外科的治療の差違について説明できる。

3. 授業内容 (講義・実習項目)

体液の恒常性維持における腎の機能について学び、腎・泌尿器系疾患の病態、症候、検査、診断および治療について系統的に講義する。その検査法には、放射線学的、病理学的方法も含まれる。この系で学ぶ主要な疾患は、腎不全、糸球体疾患、ネフローゼ症候群、尿細管間質病変、高血圧・腎血管病変、全身性疾患に合併した腎病変、小児の腎疾患、外科的処置が必要な腎・尿路系疾患 (腫瘍、結石、外傷)、排尿障害、尿路感染症である。

4. 教科書・教材・参考書

エッセンシャル腎臓内科学 富野 康日己 編 医歯薬出版 5,000円
 ダイナミックメディスン6巻 下条 文武・斉藤 康 西村書店 3,800円
 講義録 泌尿器科学 荒井 陽一 小川 修 編 メジカルビュー 6,000円
 Smith's General Urology Emil Tanagho Lange 8,000円
 病気が見える腎・泌尿器 医療情報科学研究所 3,564円
 Renal disease: classification and atlas of glomerular disease.
 Churg/Bernstein/ Glasscock IGAKU/SHOIN 23,900円
 小児腎臓病学 改訂第2版 日本小児腎臓病学会編 診断と治療社 9,720円
 図解腎臓内科学テキスト 富野 康日己 編 中外医学社 7,600円

5. 成績評価の方法・基準等

筆記試験を行う。各分野の配点は、小児科10点、腎臓内科40点、泌尿器科40点とし、放射線・病理10点とし、合計60点以上を合格とする。
 また、本論、放射線、病理の各分野を総合して評価するが、総合点が60点以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。

6. 事前・事後学修の内容

腎・尿路系の解剖、生理、病理学について復習しておくこと。

7. 教員名

酒井 英樹、宮田 康好、大庭 康司郎、木原 敏晴、松尾 朋博（泌尿器科）、
望月 保志（血液浄化）、
西野 友哉、小畑 陽子、山下 裕、北村 峰昭、太田 祐樹、牟田 久美子（腎臓内科）、
白川 利彦（小児科）、古里 文吾（病理診断科）、西田 暁史（放射線科）

8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	D
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	D
V. 地域医療・社会医学	D
VI. 科学的探究	C

腎泌尿器系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
6	5	火	1	泌尿器科	腎・泌尿器系 イントロダクション	泌尿器科、酒井	3講
6	5	火	2	腎臓内科	臨床総論；腎臓の構造・機能、腎疾患の主要症候	腎臓内科・西野	3講
6	12	火	1	腎臓内科	腎疾患の検査（検尿異常、腎機能検査）	腎臓内科・小畑	3講
6	12	火	2	腎臓内科	糸球体疾患①	腎臓内科・小畑	3講
6	12	火	4	(放射線)	泌尿器系の画像診断	放射線科・西田	3講
6	12	火	5	腎臓内科	糸球体疾患②	腎臓内科・西野	3講
6	12	火	6	腎臓内科	糸球体疾患③	腎臓内科・山下	3講
6	14	木	4	腎臓内科	尿細管間質性疾患	腎臓内科・小畑	3講
6	14	木	5	腎臓内科	電解質異常(水、Na異常)	腎臓内科・小畑	3講
6	14	木	6	腎臓内科	電解質異常(酸塩基異常)	腎臓内科・小畑	3講
6	19	火	1	腎臓内科	二次性腎障害（代謝性疾患、薬剤、妊娠と腎など）	腎臓内科・牟田	3講
6	19	火	2	腎臓内科	総括①	腎臓内科・牟田	3講
6	21	木	4	腎臓内科	慢性腎不全、CKD、CKD-MBD(Ca、P代謝)、透析と血液浄化療法	腎臓内科・北村	3講
6	21	木	5	腎臓内科	急性腎不全、AKI	腎臓内科・北村	3講
6	21	木	6	腎臓内科	総括②	腎臓内科・太田	3講
6	26	火	1	小児科	小児の腎泌尿器疾患	小児科、白川	3講
6	26	火	2	小児科	小児の腎泌尿器疾患	小児科、白川	3講
7	3	火	1	泌尿器科	泌尿器科学総論：解剖・生理	泌尿器科、宮田	3講
7	3	火	2	泌尿器科	泌尿器科学総論：症候・検査法	泌尿器科、宮田	3講
7	3	火	5	泌尿器科	尿路癌（疫学、診断、課題提示）	泌尿器科、宮田	3講
7	3	火	6	泌尿器科	尿路癌（課題討論、治療）	泌尿器科、宮田	3講
7	4	水	4	泌尿器科	尿路結石	久留米大、井川	2講
7	4	水	5	(病理) 泌尿器病理	泌尿器・前立腺1（実習・講義）	病理診断科、古里	CBT室
7	4	水	6	(病理) 泌尿器病理	泌尿器・前立腺2（講義）	病理診断科、古里	CBT室
7	5	木	4	泌尿器科	腎腫瘍	血液浄化・望月	3講
7	5	木	5	泌尿器科	腎血管性病変	血液浄化・望月	3講
7	5	木	6	泌尿器科	排尿機能障害	泌尿器科・松尾	3講
7	10	火	1	泌尿器科	性機能障害	泌尿器科、宮田	3講
7	10	火	2	泌尿器科	小児泌尿器疾患	泌尿器科、木原	3講
7	11	水	4	(病理) 腎泌尿器病理	泌尿器・腎（講義・実習）	病理診断科、古里	CBT室
7	11	水	5	(病理) 腎泌尿器病理	泌尿器・膀胱・尿管（講義・実習）	病理診断科、古里	CBT室
7	11	水	6	(病理) 腎泌尿器病理	細胞診/尿（講義・実習）	病理診断科、二反田	CBT室
7	17	火	1	泌尿器科	尿路性器外傷	泌尿器科、宮田	3講
7	17	火	2	泌尿器科	炎症性疾患	泌尿器科、酒井	3講
7	19	木	4	腎臓内科TBL	腎臓内科TBL	腎臓内科・牟田	3講
7	19	木	5	腎臓内科TBL	腎臓内科TBL	腎臓内科・牟田	3講
7	19	木	6	腎臓内科TBL	腎臓内科TBL	腎臓内科・牟田	3講
7	20	金	4	泌尿器科TBL	泌尿器科TBL	泌尿器科、大庭	3講
7	20	金	5	泌尿器科TBL	泌尿器科TBL	泌尿器科、大庭	3講
7	20	金	6	泌尿器科TBL	泌尿器科TBL	泌尿器科、大庭	3講
7	24	火	4~6	試験			4講

感染症系

責任者	氏名（教室）	泉川 公一（臨床感染症学）		
	電話番号	095-819-7731	e-mail	koizumik@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	水曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	3年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Infectious Diseases		

1. 授業の概要及び位置づけ

感染症は、あらゆる臓器に発症しうる疾病であり、原因微生物も多岐にわたる。感染症が疑われる患者にいかにかアプローチし、的確な診断、適切な治療、さらには感染予防へと結びつけていくかを、多角的な視点から学ぶ。病原体の多様性や感染症の臨床像に対し応用力をつけ、感染予防の方法についても学ぶ。

2. 授業到達目標

到達目標：臨床医学の中における感染症の特徴を理解して、説明することができる。感染症の患者へのアプローチや診断、治療、予防を総合的にとらえて説明することができる。また、熱帯感染症についてその背景、特徴を説明することができる。院内感染について、その対策や制御および重要な原因微生物について説明することができる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

内科学の一部を構成する「感染症学」に相当する内容を学習する。主に一般細菌、ウイルス、真菌、寄生虫、抗酸菌感染症の診断と治療を学習する。また、院内感染の予防や感染対策も重要な問題であるため、その対策の実際を学び、実習も行う。さらにグローバル化を背景に日本でも見られるようになったマラリア、デング熱、下痢症、新興感染症についても学ぶ。おのおのの病原体の基礎知識、宿主-病原体関係について理解し感染症の病態生理を根本的に理解する。

4. 教科書・教材・参考書

以下のものを参考書として推薦する。

- ・Mandel GL, Bennett JE, Dolin R. 8th ed 「Principles and Practice of Infectious Diseases」
- ・Mayhall CG. 4th ed 「Hospital Epidemiology and Infection Control」
- ・Richard A. Harvey 山口恵三/松本哲哉 監訳 「イラストレイテッド微生物学 第2版」丸善株式会社
- ・河野 茂 編 「感染症のとらえ方」 文光堂
- ・柳原 克紀 編 「感染症の診断って、こんなちょっとしたことで差がついちゃうんですね。」 南江堂

5. 成績評価の方法・基準等

期末試験100%。授業内容を中心に出题する試験により行う。60%未満の得点は不合格とする。

本論、病理の各分野を総合し、60%以上を合格とする。

ただし、総合点が60%以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。

6. 事前・事後学修の内容

すでに2年次に履修した感染系の各項目を復習しておくこと。

7. 教員名

泉川 公一、宮崎 泰可、高園 貴弘、田代 将人（臨床感染症学）、
山本 和子、河野 圭（感染制御教育センター）、
今村 圭文、西條 知見（呼吸器内科）、
有吉 紅也、森本 浩之輔（熱研内科）、
森田 公一、濱野 真二郎（熱帯医学研究所）、
大沢 一貴（比較動物医学）、森内 浩幸（小児科）、柳原 克紀（病態解析・診断学）、
山本 善裕（富山大学）

8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	S
II. 医学・医療に関する知識	S
III. 医療の実践	A
IV. コミュニケーション技能	S
V. 地域医療・社会医学	S
VI. 科学的探究	A

感染症系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
6	5	火	4	世界と日本における感染症の現状	致死率の高い流行性感症の現状、耐性菌の拡大とその対策など、感染症を取り巻く現状と課題について、感染症系でマスターすべきことを確認する。	臨床感染症学・泉川	3講
6	5	火	5	感染症診断の基本的アプローチ	感染症の古典的な鏡顕や培養、抗血清による診断法から、近年開発された尿中抗原検査や遺伝子診断まで適応や意義を学ぶ。	臨床感染症学・泉川	3講
6	5	火	6	現代医療における易感染性宿主と日和見感染症	抗がん剤治療や臓器移植後の免疫不全と併発する感染症の病態生理を講義する。	臨床感染症学・泉川	3講
6	6	水	1	感染症の予防(1) : 能動免疫	ワクチン接種による感染症の予防法についての総論と、代表的なワクチンの各論について学ぶ。	小児科・森内	3講
6	6	水	2	感染症の予防(2) : 受動免疫, その他	免疫グロブリン療法による受動免疫やその他の手段による感染症の予防法について学ぶ。	小児科・森内	3講
6	6	水	4	(病理)	感染症 (講義・実習)	病理診断科・新野	CBT室
6	13	水	1	ウイルス感染症の診断	ウイルス感染症の診断法の総論と、他の授業では取り上げられないウイルスの診断法の各論を概説する。	小児科・森内	3講
6	13	水	2	ウイルス感染症の治療	ウイルス感染症の治療法の総論と、他の授業では取り上げられないウイルスの治療法の各論を概説する。	小児科・森内	3講
6	15	金	5	不明熱とsepsis	不明熱の3大原因の一つが感染症である。不明熱をみた場合に鑑別すべき感染症と診断法について学ぶ。	臨床感染症学・高園	3講
6	15	金	6	感染症の救急診療	感染症領域における救急診療のポイントを実際の症例を交えながら学ぶ。	感染制御教育センター・河野圭	3講
6	18	月	4	抗菌薬の選択法と適正使用	最新の一般抗菌薬の種類、各系統のスペクトルや副作用の特徴、典型的な適応症について学ぶ。	病態解析・診断学・柳原	3講
6	18	月	5	感染症の画像診断	感染症領域における画像診断のポイントを実際の症例を交えながら学ぶ。	感染制御教育センター・山本和子	3講
6	18	月	6	T B L 準備		感染制御教育センター、臨床感染症学、第二内科	3講
6	25	月	4	T B L		感染制御教育センター、臨床感染症学、第二内科	3講
6	25	月	5	T B L		感染制御教育センター、臨床感染症学、第二内科	3講
6	25	月	6	T B L		感染制御教育センター、臨床感染症学、第二内科	3講
6	27	水	1	難治性感染症	問題となる難治性感染症の原因として耐性菌やバイオフィーム感染症などがあるが、具体的な疾患について学ぶ。	第二内科・西條	3講
6	27	水	2	深在性真菌症の診断と治療	深在性真菌症の主要な病原菌、重要な基礎疾患、エビデンスに基づく抗真菌薬療法について学ぶ。	臨床感染症学・宮崎	3講
7	2	月	4	性行為感染と母子感染	ヒトの再生に関わる性行為、妊娠、分娩、授乳の営みを介して起こる感染症の総論と、代表的疾患の各論を学ぶ。	小児科・森内	3講
7	2	月	5	グローバルヘルスと感染症	熱帯感染症を概説するとともに、国境を越えた課題として感染症を地球規模でとらえる視野を持たせる。	熱研内科・有吉	3講
7	2	月	6	熱帯でよくみる細菌感染症の診断と治療	主に熱帯地でみられる、細菌性感染症について、病態、診断、治療について解説する。	熱研内科・有吉	3講
7	4	水	1	熱帯地方のウイルス感染症の診断と治療	熱帯地域で重要な日本脳炎、デング出血熱、西ナイル熱などの蚊媒性ウイルス感染所の診断、治療、予防について講義する。	熱研・森田	3講
7	4	水	2	寄生虫感染症の診断と治療	熱帯地でみられる寄生虫感染症の疫学・病態・診断・治療・予防について講義する。	熱研・濱野	3講
7	9	月	4	HIV/AIDSの疫学、自然経過、予防	国内外のエイズ流行の動向について概説し、エイズの疫学、自然経過、予防対策の本質について学ぶ。	熱研内科・有吉	3講
7	9	月	5	HIV/AIDSの臨床、治療	HIV感染者・エイズ患者に対する臨床的アプローチの仕方、日和見感染症の予防・治療、最新の抗HIV薬併用療法について学ぶ。	熱研内科・有吉	3講
7	9	月	6	なし	なし	なし	3講

感染症系

(3年次・前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
7	11	水	1	マラリアの診断と治療および予防	熱帯地でみられるマラリアを中心とする原虫疾患の疫学・病態・臨床・診断方法・治療・予防について体系的に説明する。	熱研内科・有吉	3講
7	11	水	2	人獣共通感染症	人獣共通（動物由来）感染症について、微生物の概説、伝播方式、予防策などトピックを交えながら講義する。	比較動物医学・大沢	3講
7	11	水	3	耐性菌による感染症	現在、各種領域で問題となっている耐性菌を紹介するとともに、耐性菌による感染症の発症に至る機序や治療について学ぶ。	臨床感染症学・田代	3講
7	17	火	4	T B L		熱研・森本	3講
7	17	火	5	T B L		熱研・森本	3講
7	17	火	6	インフルエンザの臨床、治療	インフルエンザウイルス感染に関連する様々な臨床像について説明する。	第二内科・今村	3講
7	18	水	1	院内感染とその対策 I	接触感染、飛沫感染、空気感染の違いと、院内感染対策の上で重要な病原菌の病態や対処方法を学ぶ。	臨床感染症学・泉川	3講
7	18	水	2	院内感染とその対策 II	院内感染を防止するための理論と対策を学ぶ。	臨床感染症学・泉川	3講
7	18	水	3	院内感染対策実習	院内感染防止の具体的手順について実習する。	臨床感染症学・泉川・田代 感染制御教育センター・河野	3講
7	20	金	7	抗酸菌感染症の診断と治療	結核症と非結核性抗酸菌症の疫学、病態と鑑別診断、さらに診断方法と標準的な治療法に関して学習する。	富山大学・山本	3講
7	23	月	4	T B L		臨床感染症学・泉川・田代 感染制御教育センター・河野	3講
7	23	月	5	T B L		臨床感染症学・泉川・田代 感染制御教育センター・河野	3講
7	25	水	4~6	試験			4講

運動系

責任者	氏名（教室）	尾崎 誠（整形外科（構造病態整形外科））		
	電話番号	095-819-7321	e-mail	mosaki@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:00～18:00		

対象年次・学期	3年次・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	2.5
科目英語名	Musculo-skeletal system, lecture		

1. 授業の概要及び位置づけ

四肢、脊椎、顔面等の運動器では、炎症、変性、腫瘍、外傷、先天異常、代謝疾患、血行障害など数多くの疾患が生じる可能性を含んでいる。これらの疾患を理解するためには、骨・関節系統のみならず神経・筋系統の広範な領域にわたる正常の機能を把握する必要がある。これらの疾患の治療目的は、生命の維持と疾患の予防ならびに機能確保・機能再建である。

2. 授業到達目標

運動器疾患の基礎となる骨・関節・筋・神経の生理・代謝・構造を理解する。種々の検査法を含めた診断学、さらに治療学の概略ならびに各部位別の疾患とその治療法を理解する。急性疾患における適切な救急処置を理解する。

3. 授業内容（講義・実習項目）

主にプリントとスライドによる講義である。

4. 教科書・教材・参考書

標準整形外科学 中村 利孝・内田 淳正ほか 医学書院 9,870円
 整形外科サブノート 東 博彦 ほか 南江堂 5,460円
 標準形成外科学 第5版 秦 維郎・野崎 幹弘 編集 医学書院 7,140円
 TEXT 形成外科学 第2版 波利井 清紀 監修 南山堂 6,300円

5. 成績評価の方法・基準等

筆記試験（出題範囲は講義内容と上記教科書）。
 評価には出席日数を考慮する。本論、放射線、病理の各分野を総合し、60点以上を合格とする。ただし、総合点が60点以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。

6. 事前・事後学修の内容

解剖学、生理学、生化学等の基礎的知識を整理しておくこと。

7. 教員名

尾崎 誠、宮本 俊之、田口 憲士、梶山 史郎、松林 昌平、野村 賢太郎、辻本 律、岡崎 成弘、千葉 恒、津田 圭一、安達 信二、米倉 暁彦、木寺 健一、志田 崇之、富田 雅人（整形外科）、田中 克己、矢野 浩規（形成外科）

8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	A
II. 医学・医療に関する知識	A
III. 医療の実践	B
IV. コミュニケーション技能	B
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	A

運動系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	19	水	4	運動系総論(2)	診断学	整形・小林	4 講
9	19	水	5	骨・関節の外傷(1)	外傷総論	整形・宮本	4 講
9	19	水	6	骨・関節の外傷(2)	外傷各論(高齢者外傷)	整形・宮本	4 講
9	21	金	4	運動系総論(1)	総論、歴史	整形・尾崎	4 講
9	21	金	5	骨・関節の外傷(3)	外傷各論(小児外傷)	整形・宮本	4 講
9	21	金	6	骨・関節の外傷(4)	外傷各論(成人外傷)	整形・田口	4 講
9	26	水	4	(病理)	病理学(講義・実習)	病理診断・尹	C B T
9	28	金	4	リハビリ(1)	リハビリ(総論)	保健学科・小関	4 講
9	28	金	4	リハビリ(1)	リハビリ(総論)	保健学科・小関	4 講
9	28	金	5	上肢の疾患(1)	上肢(1)	整形・梶山	4 講
9	28	金	6	上肢の疾患(2)	上肢(2)	整形・梶山	4 講
10	1	月	1	リハビリ(2)	リハビリ(各論1)	整形・松林	4 講
10	1	月	2	リハビリ(3)	リハビリ(各論2)	整形・松林	4 講
10	1	月	3	運動系総論(3)	骨・軟骨の構造と生理	整形・野村	4 講
10	1	月	4	運動系総論(4)	治療学	整形・辻本	4 講
10	1	月	5	上肢の疾患(3)	上肢(3)	整形・辻本	4 講
10	1	月	6	顔面外傷	顔面外傷総論；軟部組織損傷・顔面骨骨折	形成外科・矢野	4 講
10	3	水	1	手の外傷	手の機能解剖と診断・治療	形成外科・田中	4 講
10	3	水	2	再建外科	四肢組織欠損に対する機能再建	形成外科・田中	4 講
10	3	水	3	放射線・画像診断(1)	脊椎・関節疾患、外傷	放射線科・上谷雅孝	4 講
10	10	水	4	放射線・画像診断(2)	骨・軟部腫瘍、骨髄炎	放射線科・上谷雅孝	1 講
10	12	金	4	炎症性疾患(1)	骨・関節の感染症	整形・岡崎	4 講
10	12	金	5	炎症性疾患(2)	関節リウマチ	整形・千葉	4 講
10	12	金	6	炎症性疾患(3)	リウマチ類似疾患	整形・千葉	4 講
10	15	月	1	脊椎(1)	脊椎(1)	整形・津田	4 講
10	15	月	2	脊椎(2)	脊椎(2)	整形・津田	4 講
10	15	月	3	脊椎(3)	脊椎(3)	整形・山田	4 講
10	15	月	4	脊椎(4)	脊椎(4)	整形・山田	4 講
10	15	月	5	脊椎(5)	脊椎(5)	整形・安達	4 講
10	15	月	6	脊椎(6)	脊椎(6)	整形・安達	4 講
10	22	月	1	下肢の疾患(1)	膝関節(1)	整形・米倉	4 講
10	22	月	2	下肢の疾患(2)	膝関節(2)・足関節・足趾	整形・米倉	4 講
10	22	月	3	下肢の疾患(3)	股関節(1)	整形・木寺	4 講
10	22	月	4	下肢の疾患(4)	股関節(2)	整形・志田	4 講

運動系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
10	22	月	5	下肢の疾患(5)	股関節(3) (小児)	整形・松林	4 講
10	22	月	6	腫瘍性疾患(1)	腫瘍各論(1) 悪性骨軟部腫瘍(1)	整形・野村	4 講
10	26	金	1	腫瘍性疾患(2)	骨軟部腫瘍総論	整形・富田	4 講
10	26	金	2	腫瘍性疾患(3)	腫瘍各論(2) 良性骨軟部腫瘍	整形・富田	4 講
10	26	金	3	腫瘍性疾患(4)	腫瘍各論(3) 悪性骨軟部腫瘍(2)	整形・野村	4 講
10	29	月	4~6	試験			4 講

生殖系

責任者	氏名 (教室)	(産科婦人科学)		
	電話番号	095-819-7363	e-mail	0
	オフィスアワー	17:00~17:30		

対象年次・学期	3年次・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	3.5
科目英語名	Reproductive Medicine		

1. 授業の概要及び位置づけ

男女の生殖器の解剖、生理および病理について系統的に学習する。正常および異常妊娠、分娩について系統的に学習する。授業内容は講義形式を用いる。

2. 授業到達目標

女性生殖器、男性生殖器の解剖、発生およびその異常について説明できる。男性不妊症や主な男性生殖器疾患について説明できる。女性の性周期、妊娠成立の仕組み、不妊症および不育症について説明できる。正常妊娠、胎児、分娩の経過およびその異常としてのハイリスク妊娠、分娩について説明できる。もな女性生殖器疾患について説明できる。

3. 授業内容 (講義・実習項目)

講義時間は55コマである。内訳は第三解剖1コマ、泌尿器科3コマ、産婦人科51コマである。

4. 教科書・教材・参考書

ムーア人体発生学 Moore, Persaud 医歯薬出版 9,500円
 新泌尿器科学 内藤 誠二 南山堂 8,700円
 標準産科婦人科学 岡井 崇 他編 医学書院 8,610円
 臨床産科超音波診断 改訂2版 増崎 英明 メディカ出版 7,800円

5. 成績評価の方法・基準等

出席点および筆記試験により評価する。筆記試験問題は担当教員が分担して作成する。原則として60%以上の得点をもって合格とする。

本論、病理の各分野を総合し、60点以上を合格とする。

ただし、総合点が60点以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。

6. 事前・事後学修の内容

教科書、参考書を読み、予習復習を行うこと

7. 教員名

三浦清徳、北島道夫、嶋田貴子、長谷川ゆり、濱口大輔、北島百合子、森崎佐知子、松本加奈子、東島愛、阿部修平、村上直子、福島愛、大橋和明 (産婦人科)、吉村泰典、檜原久司、片淵秀隆、村上誠、中島久良、藤下晃、小寺宏平、中山大介、吉田敦 (非常勤講師)

8. ディプロマポリシー (レベルマトリクス) との対応

I. 倫理観とプロフェッショナルリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	B

生殖系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	18	火	1	イントロダクション	産婦人科学について	産婦人科・三浦	4講
9	18	火	2	性分化と性器の発生	性器の発生、性分化異常	解剖3・小路	4講
9	18	火	4	女性の性機能	性機能系のホルモン／視床下部-下垂体-卵巣系／性器の周期的変化	産婦人科・北島百	4講
9	18	火	5	外陰・膣の疾患(1)	外陰・膣の炎症／性感染症	産婦人科・嶋田	4講
9	18	火	6	外陰・膣の疾患(2)	骨盤内炎症性疾患 (PID)	産婦人科・嶋田	4講
9	20	木	1	女性性器の構造	女性性器の構造／産婦人科診察	非常勤・藤下	4講
9	20	木	2	女性性器の異常	形態異常／位置異常／損傷と瘻	非常勤・藤下	4講
9	20	木	4	不妊(1)	不妊症	産婦人科・北島道	4講
9	20	木	5	不妊(2)	不育症	産婦人科・北島百	4講
9	20	木	6	不妊(3)	性分化異常／男性不妊症	泌尿器科・宮田	4講
9	25	火	1	付属器の疾患(2)	卵巣癌	非常勤・小寺	4講
9	25	火	2	付属器の疾患(3)	卵管癌	非常勤・小寺	4講
9	25	火	4	男性生殖器の疾患(1)	前立腺肥大症	泌尿器科・酒井	4講
9	25	火	5	男性生殖器の疾患(2)	前立腺癌	泌尿器科・酒井	4講
9	25	火	6	男性生殖器の疾患(3)	精巣腫瘍／陰茎腫瘍	泌尿器科・酒井	4講
9	26	水	5	(病理) 生殖病理	生殖系・子宮頸部 (講義・実習)	病理診断・尹	CBT室
9	26	水	6	(病理) 生殖病理	生殖系・子宮頸部 (講義・実習)	病理診断・尹	CBT室
9	27	木	1	月経	月経周期・排卵の調節機構	非常勤・檜原	4講
9	27	木	2	外陰・膣の疾患(3)	外陰癌／膣癌	非常勤・村上	4講
9	27	木	4	子宮の疾患(2)	子宮頸管ポリープ／子宮頸部異形成／子宮頸癌	非常勤・中島	4講
9	27	木	5	子宮の疾患(3)	子宮内膜増殖症・子宮体癌	産婦人科・濱口	4講
9	27	木	6	付属器の疾患(1)	卵巣腫瘍・類腫瘍病変	産婦人科・濱口	4講
10	2	火	1	医療倫理	生殖医療と生命倫理	非常勤・吉村	4講
10	2	火	2	婦人科手術	エキスパートが教える婦人科手術の種類とその特徴	産婦人科・三浦	4講
10	2	火	4	加齢と疾患	更年期障害／老年期障害	産婦人科・北島道	4講
10	2	火	5	女性医学	女性の不定愁訴／漢方	産婦人科・北島百	4講
10	2	火	6	妊娠の生理(1)	生命のはじまりー受精と着床／胚形成と胎盤形成	産婦人科・北島道	4講
10	3	水	4	(病理) 生殖病理	生殖系・子宮頸部 (講義・実習)	病理診断・尹	CBT室
10	3	水	5	(病理) 生殖病理	生殖系・子宮頸部 (講義・実習)	病理診断・尹	CBT室
10	3	水	6	(病理) 生殖病理	細胞診	原研病理・松田	1講
10	4	木	1	妊娠の生理(2)	胎児の発育／胎児-胎盤系の生理／妊娠による母体の変化	産婦人科・濱口	4講
10	4	木	2	妊娠中の胎児評価	胎児心拍陣痛図の読み方	産婦人科・松本	4講
10	4	木	4	正常分娩(1)	分娩の概念／陣痛初来機序／分娩の3要素／分娩機転	産婦人科・北島百	4講
10	4	木	5	正常分娩(2)	正常分娩の経過と管理／産褥期／新生児	産婦人科・阿部	4講

生殖系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
10	4	木	6	異常分娩(1)	陣痛の異常／児頭骨盤不均衡(CPD)	産婦人科・松本	4講
10	9	火	1	妊娠の異常(1)	妊娠悪阻／流産／子宮外妊娠	非常勤・藤下	4講
10	9	火	2	異常分娩(2)	胎位・胎向・胎勢の異常	産婦人科・阿部	4講
10	9	火	4	産科処置	産科手術／分娩誘発・促進／産科麻酔	産婦人科・濱口	4講
10	9	火	5	妊娠の異常(2)	早産と前期破水	産婦人科・吉田	4講
10	9	火	6	妊娠の異常(3)	妊娠中の高血圧	産婦人科・吉田	4講
10	10	水	5	(病理)生殖病理	生殖系・子宮頸部(講義・実習)	熊本大学・三上	CBT室
10	10	水	6	(病理)生殖病理	生殖系・子宮頸部(講義・実習)	熊本大学・三上	CBT室
10	11	木	1	妊娠の異常(4)	多胎妊娠	産婦人科・東島	4講
10	11	木	2	妊娠の異常(5)	絨毛性疾患／胎児発育遅延(FGR)	産婦人科・東島	4講
10	11	木	4	妊娠の異常(6)	羊水過多症／羊水過少症／胎盤・臍帯の異常	産婦人科・長谷川	4講
10	11	木	5	妊娠の異常(7)	妊娠と感染／周産期感染症	産婦人科・森崎	4講
10	11	木	6	産褥の異常	産科出血／産科ショックとDIC一産科救急の対処法	産婦人科・長谷川	4講
10	16	火	1	合併症妊娠(1)	内分泌・代謝／自己免疫／精神神経疾患	産婦人科・森崎	4講
10	16	火	2	先天異常	先天異常／遺伝／出生前診断／胎児治療	非常勤・中山	4講
10	16	火	4	合併症妊娠(2)	婦人科／心血管／血液／腎・泌尿器	産婦人科・森崎	4講
10	16	火	5	合併症妊娠(3)	消化器／呼吸器疾患	産婦人科・福島	4講
10	16	火	6	産婦人科の遺伝	胎児／妊婦／がんに関する遺伝	産婦人科・三浦	4講
10	17	水	4	TBL(1)	婦人科腫瘍	産婦人科・嶋田	4講
10	17	水	5	TBL(2)	周産期1	産婦人科・長谷川	4講
10	17	水	6	TBL(3)	生殖内分泌	産婦人科・北島道	4講
10	23	火	1	婦人科腫瘍の病因学	ノーベル生理医学賞と子宮頸癌予防HPVワクチン	非常勤・片渕	4講
10	23	火	2	TBL(4)	周産期2	産婦人科・三浦	4講
10	24	水	4~6	試験			4講

臨床検査医学

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 9:00～17:00		

対象年次・学期	3年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	0.5
科目英語名	Laboratory Medicine		

1. 授業の概要及び位置づけ

患者の病態を把握するために必要な検査が何かを学び、それぞれの検査の特徴を知った上で、それらを適切に使い分け、かつ適切に結果を解釈する思考を構築する。検査値から鑑別を広く挙げ、病態を深く読む視点を養う。

2. 授業到達目標

臨床検査の意義とその解釈を説明できる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

正しい臨床診断を得るためには、検査データの科学的かつ総合的な解釈能力が要求される。病院の中核部門の1つである検査部や輸血部で行われている検査について理解を深める。各種検査についての基本的知識や解釈、原理、異常値が出る病態生理学的機序を理解する授業を行う。

4. 教科書・教材・参考書

臨床検査ガイド 文光堂

標準臨床検査医学 医学書院

臨床検査法提要 金原出版

よくわかる輸血学・改訂版 大久保 光夫 羊土社

移植・輸血検査学 講談社

血液細胞アトラス 文光堂

Handbook of Hematologic Pathology Marcel Dekker Inc, USA

Molecular Diagnostics Methods and Clinical Applications Lela Buckingham F.A.Davis

戸田新細菌学 吉田眞一、柳雄介、吉開泰信 南山堂

標準臨床検査学「微生物学・臨床微生物学・医動物学」 一山智、田中美智男 医学書院

医療スタッフのための 微生物検査のススメ 柳原克紀 ヴァンメディカル

5. 成績評価の方法・基準等

成績評価の方法：定期考査100%。成績評価の基準：60点以上を合格とする。

特別な理由なく講義に1/3以上欠席した場合は、定期考査の受験資格はない。

6. 事前・事後学修の内容

授業の前に参考書で予習をしておくこと。

7. 教員名

柳原 克紀、長谷川 寛雄、森永 芳智、宇野 直輝、賀来 敬仁（臨床検査医学）、

長井 一浩（細胞療法部）

8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	C

臨床検査医学

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	19	水	1	臨床検査総論	臨床検査総論	臨床検査医学 柳原克紀	4 講
9	19	水	2	臨床検査総論	臨床検査総論	臨床検査医学 柳原克紀	4 講
9	19	水	3	臨床検査総論	臨床検査総論	臨床検査医学 柳原克紀	4 講
9	26	水	1	臨床化学総論	臨床化学総論	臨床検査医学 宇野直輝	4 講
9	26	水	2	臨床化学各論	臨床化学各論	臨床検査医学 賀来敬仁	4 講
9	26	水	3	臨床化学各論	臨床化学各論	臨床検査医学 賀来敬仁	4 講
10	10	水	1	微生物検査	微生物検査	臨床検査医学 森永芳智	4 講
10	10	水	2	微生物検査	微生物検査	臨床検査医学 森永芳智	4 講
10	10	水	3	微生物検査	微生物検査	臨床検査医学 森永芳智	4 講
10	12	金	1	一般検査	一般検査	臨床検査医学 長谷川寛雄	4 講
10	12	金	2	血液学検査	血液学検査	臨床検査医学 長谷川寛雄	4 講
10	12	金	3	血液学検査	血液学検査	臨床検査医学 長谷川寛雄	4 講
10	17	水	1	生理機能検査	生理機能検査	臨床検査医学 賀来敬仁	4 講
10	17	水	2	免疫血清検査	免疫血清検査	臨床検査医学 宇野直輝	4 講
10	17	水	3	遺伝子検査総論	遺伝子検査総論	臨床検査医学 宇野直輝	4 講
10	26	金	4	輸血検査	輸血検査	細胞療法部 長井一浩	4 講
10	26	金	5	輸血検査	輸血検査	細胞療法部 長井一浩	4 講
10	26	金	6	輸血検査	輸血検査	臨床検査医学 長井一浩	4 講
10	29	月	1	遺伝子検査各論	遺伝子検査各論	臨床検査医学 宇野直輝	4 講
10	29	月	2	遺伝子検査各論	遺伝子検査各論	臨床検査医学 長谷川寛雄	4 講
10	29	月	3	検査の実際	検査の実際	臨床検査医学 柳原克紀	4 講
11	5	月	4~6	試験			4 講

内分泌・代謝・栄養系

責任者	氏名 (教室)	川上 純 (内科学第一)		
	電話番号	095-819-7260	e-mail	atsushik@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	8:00~9:00		

対象年次・学期	3年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
科目英語名	Endocrinology and Metabolism		

1. 授業の概要及び位置づけ

内分泌・代謝・乳腺疾患の病因、病態生理、症状・所見、検査、治療について理解する。

2. 授業到達目標

代表的な内分泌・代謝・乳腺疾患について病因、病態生理、症状・所見、検査、治療について説明できる。

3. 授業内容 (講義・実習項目)

内分泌学の基本であるホルモンは特異的な内分泌腺から分泌され、血流を介して各ホルモンに特異的受容体を有する標的細胞に作用する生理活性物質と定義されています。講義ではまず、総論としてすべてのホルモンに共通した概念、作用機序、分泌調節機序を理解してもらい、次に各論として代表的ホルモンを分泌する内分泌腺 (視床下部下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺) 別に、個々のホルモンの作用、分泌調節、さらに代表的な疾患 (末端肥大症、尿崩症、バセドウ病、クッシング症候群など) および最近のトピックについて話を進める予定です。

代謝・栄養系として、栄養学ならびに糖代謝について基本的な概念を習得し、その上で、糖尿病、低血糖、高脂血症、肥満、痛風などの疾患を講義します。糖尿病はインスリン分泌および作用の不足の結果、高血糖を生じますが、慢性的な高血糖が持続しますと糖尿病に特有な腎症・網膜症・神経障害などの合併症を生じます。最初に、糖尿病の分類、診断、糖尿病合併症および糖尿病の治療について講義します。また、トピックとしていくつかの遺伝子異常による糖尿病や、新しい糖尿病治療薬などについてふれます。

高脂血症とは血中脂質 (コレステロール、中性脂肪) が増加した状態であり、動脈硬化性疾患 (心筋梗塞、狭心症) の主な危険因子です。まず最初にリポ蛋白代謝について説明し、次に高脂血症の分類、動脈硬化の発生機序、メタボリック症候群について講義します。

外科分野として、乳癌や乳腺良性疾患および甲状腺癌、バセドウ病、副甲状腺機能亢進症などの外科治療を中心に基礎的な知識や最新のトピックスについて触れていきます。また乳癌に関しては分子標的治療薬を含めた薬物療法についても講義します。

4. 教科書・教材・参考書

最新 内分泌代謝学 中尾 一和 編 診断と治療社 9,000円

CECIL TEXTBOOK OF MEDICINE (25th ed)

Lee Goldman, Andrew I. Schafer 他編 W.B.Saunders company

Harrison's PRINCIPLES of INTERNAL MEDICINE (19th ed)

Fauci, Kasper, Longo, Braunwald 他編 Mc Graw-Hill

Williams textbook of Endocrinology (13th ed.)

Melmed, Polnsky, Larsen 他編 Elsevier

標準外科学 (第14版) 監修: 畠山 勝義 医学書院

5. 成績評価の方法・基準等

定期考査 100%

本論、放射線、病理、薬理の各分野を総合し、60点以上を合格とする。

ただし、総合点が60点以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。

6. 事前・事後学修の内容

教科書・参考図書にて予習しておくことが望ましい。

7. 教員名

阿比留教生、安藤隆雄、鎌田昭江、堀江一郎、原口愛（第一内科）、
世羅至子（生活習慣病予防診療部）、桑原宏永（医学部IR室）、
古林正和（保健医療推進センター）、矢野洋（腫瘍外科）、山之内孝彰（移植消化器外科）、
高島美和（栄養管理室）、山崎浩則（佐世保総合医療センター）

8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	D
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	D
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	E

内分泌・代謝・栄養系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
10	30	火	4	内分泌代謝薬理 1	糖尿病治療薬	薬理・有賀	1 講
10	30	火	5	内分泌代謝薬理 2	高脂血症・痛風治療薬	薬理・有賀	1 講
10	30	火	6	内分泌代謝薬理 3	内分泌代謝疾患治療薬	薬理・中川	1 講
11	1	木	1	内分泌総論	ホルモン作用・疾患総論	第一内科 安藤	4 講
11	1	木	2	甲状腺	甲状腺総論	第一内科 安藤	4 講
11	1	木	3	視床下部・下垂体	視床下部・下垂体後葉疾患	第一内科 安藤	4 講
11	2	金	1	代謝・栄養学	栄養学	栄養管理室 高島	4 講
11	2	金	2	糖尿病	糖代謝総論	第一内科 阿比留	4 講
11	2	金	3	糖尿病	糖尿病の分類と診断	第一内科 阿比留	4 講
11	8	木	1	視床下部・下垂体	下垂体前葉疾患	第一内科 安藤	4 講
11	8	木	2	甲状腺	甲状腺機能亢進症	生活習慣病予防診療部 世羅	4 講
11	8	木	3	甲状腺	甲状腺機能低下症	生活習慣病予防診療部 世羅	4 講
11	9	金	1	糖尿病	糖尿病の治療 パート 1	第一内科 阿比留	4 講
11	9	金	2	糖尿病	糖尿病の治療 パート 2	第一内科 阿比留	4 講
11	9	金	3	性腺・消化管ホルモン	性分化異常症・消化管ホルモン 産生腫瘍	第一内科 堀江	4 講
11	12	月	1	糖尿病	糖尿病昏睡・急性合併症	医学部IR室 桑原	4 講
11	12	月	2	副腎	副腎皮質疾患	第一内科 原口	4 講
11	12	月	3	副腎	副腎髄質疾患	第一内科 原口	4 講
11	15	木	2	甲状腺	甲状腺腫瘍	第一内科 堀江	3 講
11	15	木	3	糖尿病	糖尿病の治療 パート 3	第一内科 阿比留	3 講
11	16	金	1	乳腺・内分泌	甲状腺外科	移植消化器外科 山之内	3 講
11	16	金	2	糖尿病	糖尿病の慢性合併症	保健・医療推進センター 古林	3 講
11	16	金	3	カルシウム代謝	高・低カルシウム血症・代謝性 骨疾患	第一内科 原口	3 講
11	19	月	1	脂質異常症	リポ蛋白代謝・分類、治療	非常勤講師 山崎	3 講
11	19	月	2	脂質異常症	脂質異常症の治療	非常勤講師 山崎	3 講
11	19	月	3	肥満	成因・治療	非常勤講師 山崎	3 講
11	21	水	4	(病理) 内分泌病理	内分泌 (各論的疾患概論)	原研病理 中島	2 講
11	21	水	5	(病理) 内分泌病理	内分泌 (各論的疾患概論)	原研病理 中島	2 講
11	21	水	6	(病理) 内分泌病理	内分泌 (各論的疾患概論)	原研病理 中島	2 講
11	22	木	1	痛風	核酸代謝・高尿酸血症・低血糖	第一内科 鎌田	3 講
11	22	木	2	乳腺・内分泌	乳腺外科	腫瘍外科 矢野	3 講
11	22	木	3	乳腺・内分泌	乳腺外科	腫瘍外科 矢野	3 講
11	26	月	1	TBL		第一内科 鎌田・阿比留	3 講
11	26	月	2	TBL		第一内科 鎌田・阿比留	3 講
11	26	月	3	放射線・画像診断	代謝・内分泌疾患の放射線・画像 診断	放射線科・大木	3 講
11	27	火	4	(病理) 内分泌病理	唾液腺・下垂体	病理診断 新野	C B T

内分泌・代謝・栄養系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
11	27	火	5	(病理) 内分泌病理	甲状腺	病理診断 新野	C B T
11	27	水	6	(病理) 内分泌病理	甲状腺	病理診断 新野	C B T
11	28	水	5	(病理) 内分泌病理	総合実習	病理診断 二口	C B T
11	28	水	6	(病理) 内分泌病理	総合実習	病理診断 二口	C B T
12	3	月	1	TBL		第一内科 堀江	3 講
12	3	月	2	TBL		第一内科 堀江	3 講
11	4	火	4	(病理) 内分泌病理	乳腺	病理診断 尹	C B T
11	4	火	5	(病理) 内分泌病理	乳腺	病理診断 尹	C B T
11	4	火	6	(病理) 内分泌病理	乳腺	病理診断 尹	C B T
12	7	金	4~6	試験			4 講

消化器系

責任者	氏名 (教室)	中尾 一彦 (消化器内科学)		
	電話番号	095-819-7481	e-mail	kazuhiko@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	木曜日 8:30~12:00		

対象年次・学期	3年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
科目英語名	Digestive disease		

1. 授業の概要及び位置づけ

消化器系は口腔・唾液腺に始まり、食道・胃・小腸・結腸・直腸・肛門に至る消化管系と肝臓、胆嚢、胆管、膵臓よりなる肝胆膵系に大別される。

2. 授業到達目標

消化器の病理、症状、検査、内科的消化器疾患、外科的消化器疾患、手術法などを統合包括的に把握し、消化器疾患における基礎的、臨床的な基本的知識を理解、修得する。

3. 授業内容 (講義・実習項目)

消化器系を消化管系と肝胆膵系に大別し、それぞれを病理学、内科学、外科学の順に講義を進行させる。

4. 教科書・教材・参考書

内科学書 (改訂第8版) 中山書店 31,320円

消化器内視鏡診断テキスト

第1巻: 食道・胃・十二指腸 第2巻: 小腸・大腸 文光堂 各9,180円

肝臓専門医テキスト 改訂第2版 日本肝臓病学会監修 南江堂 15,120円

消化器病診療 第2版 日本消化器病学会監修 医学書院 6,480円

5. 成績評価の方法・基準等

試験は病理、薬理、内科、外科、放射線科がそれぞれの担当時間数に応じて配分された点数をもって出題する。各科目の総点を100点として評価を行う。

ただし、総合点が60点以上であっても、各分野の得点が5割程度に満たない場合は不合格とする。

6. 事前・事後学修の内容

教科書、配付資料を参照し、予習復習を行うこと。

7. 教員名

中尾 一彦、竹島 史直、宮明 寿光、三馬 聡、赤澤 祐子、柴田 英貴、
本田 琢也、松島加代子、小澤 栄介、北山 素、田淵 真惟子、佐々木 龍、

原口 雅史 (消化器内科)、

山口 直之、橋口 慶一 (光学医療診療部)、飛永 修一 (腫瘍外科)、

金高 賢悟、伊藤 信一郎、井上 悠介、小林 慎一郎、米田 晃 (移植・消化器外科)、

石丸 英樹 (放射線科)、松永 隼人 (医科薬理学)、八橋 弘 (長崎医療センター)

8. 備考

出欠チェックは1コマ毎に行う。出欠状況は成績に反映する。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	C
VI. 科学的探究	B

消化器系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
10	25	木	1	上部消化管総論①	構造機能	消内 竹島史直	4 講
10	25	木	2	下部消化管総論①	構造機能	消内 竹島史直	4 講
10	25	木	3	下部消化管総論②	症候、機能的疾患	消内 竹島史直	4 講
10	25	木	4	(病理) 消化器病理	消化器 (各論的疾患概論)	原研病理 三浦	1 講
10	25	木	5	(病理) 消化器病理	消化器 (各論的疾患概論)	原研病理 三浦	1 講
10	25	木	6	(病理) 消化器病理	消化器 (各論的疾患概論)	原研病理 三浦	1 講
10	30	火	1	上部消化管総論②	症候	消内 松島加代子	4 講
10	30	火	2	食道疾患	先天異常、憩室、炎症、腫瘍	消内 松島加代子	4 講
10	30	火	3	消化管内視鏡	検査と治療	光学 山口直之	4 講
10	31	水	1	胃十二指腸疾患①	胃十二指腸の炎症、潰瘍	光学 橋口慶一	4 講
10	31	水	2	胃十二指腸疾患②	胃癌	光学 山口直之	4 講
10	31	水	3	胃十二指腸疾患③	その他の疾患	光学 山口直之	4 講
10	31	水	4	(病理) 消化器病理	消化器・臨床と病理 (肝胆)	長崎医療センター 伊東	2 講
10	31	水	5	(病理) 消化器病理	消化器・臨床と病理 (肝胆)	長崎医療センター 伊東	2 講
10	31	水	6	(病理) 消化器病理	細胞診 (非婦人科領域)	原研病理 松田	2 講
11	1	木	4	(病理) 消化器病理	肝胆膵の病理のポイント	原研病理 中島	2 講
11	1	木	5	(病理) 消化器病理	肝胆膵の病理のポイント	原研病理 中島	2 講
11	1	木	6	(病理) 消化器病理	肝胆膵の病理のポイント	原研病理 中島	2 講
11	2	金	4	消化器系疾患の画像診断	消化器系疾患の画像診断法 (CT, US, MRIなど)	放射線科 石丸英樹	3 講
11	2	金	5	(病理) 消化器病理	食道・胃・腸	病理診断科 赤澤	CBT室
11	2	金	6	(病理) 消化器病理	食道・胃・腸	病理診断科 赤澤	CBT室
11	6	火	1	大腸腫瘍①	ポリープ、ポリポースなど	光学 山口直之	4 講
11	6	火	2	大腸腫瘍②	大腸癌	光学 山口直之	4 講
11	6	火	3	大腸腫瘍③	その他の疾患	光学 山口直之	4 講
11	6	水	4	(病理) 消化器病理	食道・胃・腸	病理診断科 赤澤	CBT室
11	6	木	5	(病理) 消化器病理	食道・胃・腸	病理診断科 赤澤	CBT室
11	6	金	6	(病理) 消化器病理	食道・胃・腸	病理診断科 赤澤	CBT室
11	7	水	1	消化管ホルモン	消化管ホルモン	消内 松島加代子	4 講
11	7	水	2	小腸疾患	小腸疾患、吸収不良症候群、蛋白漏出性胃腸症	消内 松島加代子	4 講
11	7	水	3	全身性疾患と消化管	膠原病、アミロイドーシス、血液疾患など	光学 橋口慶一	4 講
11	7	水	4	(病理) 消化器病理	食道・胃・腸	病理診断科 赤澤	CBT室
11	7	水	5	(病理) 消化器病理	食道・胃・腸	病理診断科 赤澤	CBT室
11	7	水	6	(病理) 消化器病理	肝・胆・膵	病理診断科 二口	CBT室
11	8	木	5	(病理) 消化器病理	肝・胆・膵	病理診断科 二口	CBT室
11	8	木	6	(病理) 消化器病理	肝・胆・膵	病理診断科 二口	CBT室
11	9	金	4	(病理) 消化器病理	胃	順天堂大学 八尾	CBT室
11	9	金	5	(病理) 消化器病理	胃	順天堂大学 八尾	CBT室
11	9	金	6	(病理) 消化器病理	肝・胆・膵	病理診断科 二口	CBT室
11	12	月	4	大腸炎症①	炎症性腸疾患	消内 竹島史直	4 講

消化器系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
11	12	月	5	大腸炎症②	感染性腸炎	消内 竹島史直	4 講
11	12	月	6	大腸炎症③	その他の腸炎	消内 竹島史直	4 講
11	13	火	1	消化管外科①	食道1	移植・消化器外科 小林慎一郎	4 講
11	13	火	2	消化管外科②	食道2	移植・消化器外科 小林慎一郎	4 講
11	13	火	3	消化管外科③	胃・十二指腸	移植・消化器外科 米田 晃	4 講
11	13	火	5	(病理) 消化器病理	肝・胆・膵	病理診断科 二口	CBT室
11	13	火	6	(病理) 消化器病理	肝・胆・膵	病理診断科 二口	CBT室
11	14	水	1	消化管外科④	小腸・大腸1	移植・消化器外科 伊藤信一郎	4 講
11	14	水	2	消化管外科⑤	小腸・大腸2	移植・消化器外科 伊藤信一郎	4 講
11	14	水	3	消化管外科⑥	腹壁・肛門の疾患	移植・消化器外科 井上悠介	4 講
11	14	水	5	(病理) 消化器病理	消化器・口腔 (講義・実習)	口腔病理 片瀬	1 講
11	14	水	6	(病理) 消化器病理	消化器・口腔 (講義・実習)	口腔病理 片瀬	1 講
11	15	木	5	(病理) 消化器病理	肝・胆・膵	病理診断科 二口	CBT室
11	15	木	6	(病理) 消化器病理	肝・胆・膵	病理診断科 二口	CBT室
11	16	金	4	消化管外科⑦	概念と疾患群	移植・消化器外科 金高賢悟	3 講
11	16	金	5	肝臓総論①	正常組織・生理機能	消内 中尾一彦	3 講
11	16	金	6	肝臓総論②	病態生理	消内 中尾一彦	3 講
11	19	月	4	特別講義	肝炎①	長崎医療センター 八橋弘	3 講
11	19	月	5	特別講義	肝炎②	長崎医療センター 八橋弘	3 講
11	19	月	6	特別講義	肝炎③	長崎医療センター 八橋弘	3 講
11	20	火	1	肝臓先天異常	先天異常	消内 中尾一彦	3 講
11	20	火	2	代謝性疾患①	NASH、ASHなど	消内 宮明寿光	3 講
11	20	火	3	代謝性疾患②	薬剤性肝障害など	消内 宮明寿光	3 講
11	20	火	4	消化器系に作用する薬	潰瘍治療薬、腸疾患治療薬、肝疾患治療薬など	医科薬理 松永隼人	1 講
11	20	火	5	(病理) 消化器病理	細胞診・消化器/体腔 (講義・実習)	病理診断科 二反田	CBT室
11	20	火	6	(病理) 消化器病理	細胞診・消化器/体腔 (講義・実習)	病理診断科 二反田	CBT室
11	21	水	1	自己免疫疾患	自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎	消内 宮明寿光	3 講
11	21	水	2	肝硬変	肝硬変、静脈瘤	消内 三馬聡	3 講
11	21	水	3	肝不全	肝不全、非硬変性門亢症	消内 三馬聡	3 講
11	26	月	4	感染症	HEV、肝炎ウイルス以外のウイルスと寄生虫膿瘍など	消内 原口雅史	3 講
11	26	月	5	胆膵疾患①	主要症候	消内 小澤栄介	3 講
11	26	月	6	胆膵疾患②	検査と治療	消内 小澤栄介	3 講
11	27	火	1	肝臓の腫瘍①	肝臓細胞癌	消内 三馬聡	3 講
11	27	火	2	肝臓の腫瘍②	胆管細胞癌	消内 佐々木龍	3 講
11	27	火	3	肝臓の腫瘍③	その他の腫瘍	消内 佐々木龍	3 講
11	28	水	1	胆膵疾患③	悪性腫瘍	消内 小澤栄介	3 講
11	28	水	2	胆膵疾患④	膵臓の炎症、その他の疾患	消内 小澤栄介	3 講
11	28	水	3	胆膵疾患⑤	胆道系の炎症、その他の疾患	消内 小澤栄介	3 講
11	30	金	4	化学療法①	消化管癌の化学療法	消内 本田琢也	2 講

消化器系

(3年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
11	30	金	5	化学療法②	胆膵癌の化学療法	消内 本田琢也	2 講
11	30	金	6	肝胆膵外科①	門脈・脾臓の外科	腫瘍外科 飛永修一	2 講
12	3	月	4	肝胆膵外科②	膵疾患の外科(1)	腫瘍外科 飛永修一	3 講
12	3	月	5	肝胆膵外科③	膵疾患の外科(2)	腫瘍外科 飛永修一	3 講
12	3	月	6	肝胆膵外科④	胆道疾患の外科(1)	腫瘍外科 飛永修一	3 講
12	4	火	1	肝胆膵外科⑤	胆道疾患の外科(2)	腫瘍外科 飛永修一	3 講
12	4	火	2	肝胆膵外科⑥	肝疾患の外科(1)	腫瘍外科 飛永修一	3 講
12	4	火	3	肝胆膵外科⑦	肝疾患の外科(2)	腫瘍外科 飛永修一	3 講
12	10	月	4	TBL		消内 北山素、田渕真惟子、原口雅史、佐々木龍	3 講
12	10	月	5	TBL		消内 北山素、田渕真惟子、原口雅史、佐々木龍	3 講
12	10	月	6	TBL		消内 北山素、田渕真惟子、原口雅史、佐々木龍	3 講
12	11	火	4~6	試験			4 講

プレリサーチセミナー

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	1～3年次 通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修（研究医枠及び熱帯医学研究医枠）	単位数	各1単位
科目英語名	Pre research seminar		

1. 授業の概要及び位置づけ

基礎医学を担う研究者の育成により卓越した教育及び研究成果を社会に還元することは医学部の使命である。基礎教室配属による少人数教育により基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につけ、科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。

2. 授業到達目標

基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につけ、科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。

3. 授業内容（講義・実習項目）

1年次：論文研究（ゼミ形式）と各教室研究内容の紹介セミナー

2年次～3年次：配属教室において、研究テーマ・目標を設定し実験を行う。

4. 教科書・教材・参考書

各担当教員により必要な資料等を提示する。

5. 成績評価の方法・基準等

1年次：出席状況及び課題レポート等により総合的に評価する。

2年次：配属教室での活動、研究成果に基づき配属先の担当教員が評価する。

3年次：配属教室での活動、研究成果に基づき配属先の担当教員が評価する。

6. 事前・事後学修の内容

各担当教員による。

7. 備考

配属教室は、2年次前期終了後に、科目責任者と相談のうえ、仮配属として決定し、3年次のプレリサーチセミナー及びリサーチセミナーで本配属とする。

また、リサーチセミナーの海外実習については、配属教室と相談のうえ、派遣学生としての応募を可能とする。

8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	B

リサーチセミナー

責任者	氏名 (教室)	蒔田 直昌 (分子生理学)		
	電話番号	095-819-7031	e-mail	makitan@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	随時		

対象年次・学期	3年次・後期、 4年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	11.5
科目英語名	Research Seminar		

1. 授業の概要及び位置づけ

有能な医師になる為には、基礎研究を理解し、実施する能力が必須である。医学はまだ発展途上にあり、有能な医師は、その発展の一端を担える能力、研究成果の是非を判断する能力を習得しなければならない。現在、専門医の重要性が強調される裏側で、研究に対する意識が薄らぐ傾向にあると言えるが、リサーチセミナーでは、研究の実践を通じて「医学」が「科学」としていかに発展するかというプロセスを学ぶ。

2. 授業到達目標

セミナー期間中は、熱帯医学研究所・原爆後障害医療研究所を含む基礎系教室で終日研究活動に従事し、配属先の基礎医学系教員とマンツーマンの指導を受け、研究背景を学術論文から理解し、研究計画書を作成して実践し、研究結果をまとめ、発表および討論を行う能力を身につけることを目標とする。なお合同発表会は、可能な限り一般公開する。

3. 授業内容 (講義・実習項目)

3年次後期 (1~2月)、各配属教室において研究実習を行い、報告書を提出する。
4年次前期 (5月)、リサーチセミナー発表会において、研究内容の発表を行う。

4. 教科書・教材・参考書

各配属教室による。

5. 成績評価の方法・基準等

研究報告書・担当教員の評価・発表会の評価から総合的に評価する。

6. 事前・事後学修の内容

毎回の予習復習課題として文献資料を読むこと。

7. 備考

【研究テーマの選択方法】

1. 各教室から研究テーマ、そのテーマを指導する責任教員名とそのテーマに従事する学生数が公示される。
2. 各学生は希望する教室とテーマを1つ選択して提出する。
3. この時点で学生自身がテーマを提案してもよい。その場合にはそのテーマについて指導することを承諾する講座を必要とする。
4. 各研究テーマの定員を超過した場合には、学生間の抽選により決定する。
5. 抽選にもれた学生は、定員に満たないテーマの中から、テーマを1つ選択して提出する。
6. 全学生が何れかのテーマに属するまで上記4. と5. の操作を繰り返す。

【リサーチセミナー履修の認定の条件】

1. セミナー開始時にオリエンテーション（総合オリエンテーション、実験動物についての講義）、必要な動物実験施設やアイソトープ実験施設の使用に関する説明会に出席していること。
2. 研究活動に200時間以上を従事していること。
3. 研究報告書（A4のフォーマットを準備）を学務課へ提出すること。（※切：3月1日）
（ワープロまたはボールペン書きのものに限る。鉛筆書きは不可）
4. 実際の研究記録は配属教室の指導責任者に提出すること。配属教室ではリサーチセミナー終了時に発表会を開き、研究記録とともに評価をしてもらう。指導教員はこの評価をリサーチセミナー責任者に提出する。（※切：3月1日）
5. 4年次の5月に開催される「リサーチセミナー合同発表会」に出席し、発表・討論を行うこと。

8. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナルリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	A

English for International Medicine

Instructors: Luc Loosveldt/Jim Briganti

Class Time : to be decided

E-mail: lluc@nagasaki-u.ac.jp

Office Hours: to be announced in class

Course Objectives	
<p>This course is designed for students interested in careers in international medicine. Focus will be on developing relevant and effective communication techniques, building fluency in spoken and written English, and reinforcing critical thinking skills in English. A range of materials will be introduced to discuss global health issues. Students will be asked to research and introduce their own materials in class to show their understanding.</p>	
Required Textbooks	
<p>A range of materials will be used to introduce global health issues for discussion.</p>	
Topics	
1	First topic - pre-discussion, useful vocabulary and phrases, assignment of group roles
2	Small group discussion of readings - preparation of introductory presentation
3	Short presentations with Q&A
4	In-group review of short presentations + choosing the next topic
5	Small group discussion of readings - preparation of second short presentation
6	Short presentations with Q&A
7	In-group review of short presentations + choosing the next topic
8	Small group discussion of readings - preparation of third short presentation
9	Short presentations with Q&A
10	In-group review of short presentations + choosing the next topic
11	Small group discussion of readings - preparation of fourth short presentation
12	Short presentations with Q&A
13	Choosing the topic for the final presentation, preparing the poster
14	Review of the poster + practice sessions
15	Final poster presentations + evaluations and review of performance
Course work and Evaluation	
<p>Students will be evaluated on the basis of classwork, assignments, group work, group presentation, on-line forum participation, written assignments, and review tests. A detailed breakdown of the evaluation process will be provided in class.</p>	
<p><i>*The above syllabus is meant as a general guide, not a definite time table.</i></p>	

医学ゼミ

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	1～2年次 前期・後期、3～4年次 後期	講義形態	各担当教員による
必修・選択	必修	単位数	各1単位
科目英語名	Small group medical seminar		

1. 授業の概要及び位置づけ

必修選択の科目であり、各科目10名前後の少人数教育を行う。自らが特に学習したい分野を選択し、その分野についてコアとなる教科内容を越えて特定の内容を深く掘り下げる学習を行う。当該分野の医学・科学に対する探求心・問題解決能力の育成と、より深い理解を目指す。少人数で担当教員との双方向性の授業を行うことにより教官と親しく交流すると共に、1年次から4年次まで学年間の壁を越えて共に学ぶ環境を提供する。A0学生は、医学ゼミを通して当該領域の知識を深める。

2. 授業到達目標

各担当教員による。

3. 授業内容（講義・実習項目）

各担当教員による。

4. 教科書・教材・参考書

各担当教員による。

5. 成績評価の方法・基準等

各担当教員により、ゼミへの出席状況、取り組み等により総合的に評価する。

6. 備考

授業科目の選択方法

- 各開講科目について、教育目標、授業内容、担当教員、開講場所、開講時間帯等を公示する。
- 各学年開始前に、前期・後期別に受講希望科目を学務係に提出する（第3希望まで）。
- 第1希望を優先し、各科目へ学生の割り振りを行う。

1、2年次前期・後期、3年次前期、4年次前期に開講する。

3年次への進級には2年次で1単位以上、4年次への進級には3年次までに2単位以上、5年次への進級には4年次までに3単位以上修得する必要がある。卒業のための最低修得単位数は3単位である。

7. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナルリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	E

平成30年度 医学ゼミ 開講テーマ一覧(3年生)

教室	責任者名	ゼミテーマ(サブタイトル)	目的・方針	内容	開講時間	場所	評価方法	備考
組織解剖(第三解剖)	小路 武彦	ビデオで学ぶ組織発生	発生学・組織発生で得た知識を深めることを目的とする。	日本語の動画教材を用い、発生学から疾患への理解を深める。各回組織発生に関するDVDを鑑賞の後、グループ討論を行う。	金曜日3校時	小会議室	出席、レポートを総合的に評価。	
医科薬理学	有賀 純 中川慎介 畑山 実 松永 人	最新の論文から探る医学・生物学研究の潮流	トップジャーナルに掲載された脳神経、血管、代謝、幹細胞に関する論文の学術的背景や意義を理解し、最新の研究動向を把握し、今後の研究戦略を考える。	Nature, Science, Cellなどの国際科学誌の最新号に掲載された文部を毎週1冊ずつ紹介する。発表はパワーポイントなどを使用し、論文に記載されている実験内容や結果を解説する形式で行う。なお、論文の選定から読解、発表まで教員がマンツーマンで指導する。期間中に2回の発表を予定している。	火曜日3校時	薬理学教室セミナー室	出席、発表内容、ディスカッションへの積極的な参加を総合的に評価する。	
探索病理(病理1)	林 洋子 下川 功	病理のいろは	病理組織の見方を基本から学ぶ。	病理組織標本を顕微鏡、腫瘍や非腫瘍性疾患の病理組織像について自らまとめ、発表し、学習する。	金曜日3校時	第二実習室 第一病理学教室 見習室	出席、授業態度。	
微生物学(感染分子)	西田教行 田口 謙	ケースレポートから学ぶ感染症	原著論文を読むことで、科学的批判力を養う	NEJMのCase reportから感染症の症例を選択的に取り上げ、丁寧に読解を行う。	金曜日3校時	基礎棟8階 集會室	出席およびレポート	
免疫学	都田真奈	論文から学ぶ免疫学	重要な原著論文に触れることにより、免疫学の方法論とその根拠にあるアイデアに対する理解を深め、問題解決能力を養う。3年生を対象とする。	免疫学関連の主要な論文(英文)の抄読会を行う。学生があらかじめ自学した論文の内容を紹介し、それについて全員で議論し、理解を深める。論文の選択、読み方などは適宜指導する。	金3校時	免疫学分野集會室	発表内容、参加態度、レポート、出欠を総合的に評価	
第一内科	川上 純	臨床内科のエッセンス	臨床の基本的な考え方を学ぶ	鑑別診断・病態の説明や標準的治療の解説から、最新のトピックスまでの内容を含み、参加を通じて実際の臨床の考え方を学ぶ。	火、水 7:45~8:30	本館9階ゼミ室(906号室)	出席点など	
消化器内科	竹島史直(消化器内科)山口直之(消化器内科、光学医療診療部)	GI Club	消化管疾患の病態と内視鏡診断についてより深く学習する	前半は、入院、外来の症例検討を行うことで腸疾患に対する興味を喚起するとともに、それに関する最新の英文臨床研究やUp to Dateの抄読会を通じて理解を深める。 後半は、実際の上下部消化管、カプセル内視鏡などの画像を見て、まずは異常所見の拾い上げ、そしてそれについて病態であるのか鑑別診断を考えるが診断にたどり着くまでの過程を身につける。	金曜16:30	病院本館9階テアマン室	出席や発表内容より総合的に評価	
精神神経科	小澤寛樹	映画から見る精神医学	具体的にイメージしにくい精神医学の様々な現象、症状、問題に関して映画・テレビなどの映像表現を通じて、人の心に対する理解を深め、自己の考え・感情を論理的・能動的に議論することを目的とする。	精神疾患を取り扱った映像作品を毎回取り上げ鑑賞し、1~2, 3人がその疾患に関して事前研究と資料作成の講義スタイルでプレゼンテーションを実施する事で、能動的な参加姿勢を養う。	原則として水曜日17時開始	第3講義室または精神科外来63番診療室	①出席点50%②視聴後にディスカッションへ参加意欲・各回の提出レポート50%	毎回映画の視聴後にテーマディスカッション、解説講義を21時頃まで行います。期間内で視聴目録に他科目を受講する必要がある人、その他予定のある人などは、その点留意してください。
腫瘍外科(第一外科)	日高 重和	内視鏡下手術入門~応用	近年進歩した内視鏡下手術は最先端の技術であり、その原理の理解、基本手術修練は従来の外科手術と同様に重要である。内視鏡下手術の原理・知識、基本操作から応用をトレーニング装置で学びながら、内視鏡下手術への理解を深める。	内視鏡下手術の基礎知識講義(初回)。次にドライボックス、VRシミュレーターを用いて、設定された基本手術タスクを段階的に体験し、修練していく。内視鏡下基本タスクのシミュレーターを行う。最終目標として、VRシミュレーターを用いた腹腔鏡下胆嚢摘出術を実践する。ロボット支援手術シミュレーターも体験する。	水曜日7校時	腫瘍外科医局またはシミュレーションセンター(病院中央診療棟4階)	実技トレーニング実習が主であり、出席を重要視する。	トレーニング機器を用いる場合、場所はシミュレーションセンター(病院中央診療棟4階)です
移植・消化器外科(第二外科)	江口 晋	Nagasaki Surgical Club - 外科の歴史から手術理論、手術手技、さらには臨床試験まで -	外科の入門編から実践さらには臨床試験まで幅広く、道筋の講師陣による座談会形式のゼミです。外科実技や英会話も取り入れ、実践的な能力アップも図りたいと思います。	1. 外科の歴史(長崎の外科から世界の外科の歴史まで) 2. 外科の基本手技(縫合、鏡視下手術実技などの実技を含みます) 3. 診療、学会発表に役立つ英会話 4. 外科におけるBM(論文の読み方、読み方教えます) 5. 消化器外科の最新知見、ピルポートを知ってる? 6. 臨床に出る外科(2年生にも分かり易く解説します) 7. 移植についても語ろう 8. 風説外科のトピックス 9. 小児外科医が未来の子供に出来ること 10. 未来の外科(ロボット手術、再生医療) 11. 先輩外科医から聞く深い話(座談会形式で熱く語り合います)	金曜日16:30-17:30	移植・消化器外科医局(第二カンファ室): 医局受付で問い合わせてください。	出席を重要視する。ディスカッション内容。フリーク形式です。レポート・試験などはありません。	* 講義内容、順番は予定であり若干の変更があります。 * 学会などにより開催されない場合がありますので、開講日にはご注意ください。 * 欠席する場合は、医局まで連絡ください。 * 時間帯が合わない場合は、申し出て下さい。
眼科	Masafumi Uematsu, Yasser Helmy Mohamed	Eye: visual sensory organ	To improve English skill and knowledge of eye diseases	Discussion about eye diseases by using audiovisual materials, etc.	月曜日17:00-18:30	眼科医局	出席、態度、レポートなどにより総合的に評価する	
耳鼻咽喉科	渡邊 毅	将来役に立つ耳鼻咽喉科・頭頸部外科(入門編)	身近だがとつきにくい、耳鼻咽喉科・頭頸部外科を知り、将来(医師になっても)に役立てることを目的とする。	耳鼻咽喉科の歴史を振り返り、診察実習や実際の医療の現場を通じて耳鼻科の内科的側面・外科的側面を体感してもらい、学問としての耳鼻咽喉科と臨床医学としての耳鼻咽喉科、さらにCBTや臨床試験、将来医師になっても役に立つ種々の医療の知識・技術・経験を身につけることを目的とする。	月曜日17:00-18:30	11階 耳鼻咽喉科医局	出席、積極性、発表内容等を総合的に評価する。	
臨床検査医学	柳原克紀	臨床検査のUp To Date	遺伝子検査や新規バイオマーカー、及び既存の臨床検査の新しい臨床的知見を学ぶ。	臨床検査に関する近年の文献を読む。学生は提供された文献について学習し、発表する。	火 3校時	臨床検査医学医局(12階)	積極的な姿勢、文献の理解、発表を評価する。	
腫瘍医学	池田裕村 岡大輔 安井 深	自ら触れる「がん研究の最先端」	がん研究に関する原著論文を自ら読み解き、他者と議論することにより、科学的思考、論理的検証法の実践的なトレーニングを積む。同時に最先端の科学に触れる喜びを経験する。	がん関連の重要な英文論文について、学生がみずから読んで内容を解説し、紹介し、それについて全員で議論する。論文の選択/検索方法、読み方、発表方法については教員が指導する。	金曜日3校時	腫瘍学教室会議室	出席、参加態度、発表内容などを総合的に評価する。	
臨床感染症学・感染制御教育センター	泉川公一	感染症に強くなる!!	致死率の高い種々の感染症や薬剤耐性微生物の脅威に対して人類はどのように対応しているかを学ぶ。生き物の生態の独特な医療において何が鍵になるのか?学生との双方に意見交換を行う	日本のみならず世界各地で発生している様々な感染症について、その診断、治療ならびに先進的な研究について学び、ヒトが微生物をどのように克服しているのかそのプロセスを学び、臨床と基礎のDivingとは何かを習得する。	月曜日16:30-18:00	長崎大学病院	出席状況、発表、授業態度などの総合評価	
薬剤部	佐々木 均	実践! 医療薬剤学	実臨床における医薬品の使い方や、よくある問題点などを体験し学ぶ。	医薬品の配合変化を体験するTDMを経験し、薬物投与設計を行う	火 3校時	薬剤部	出席と授業態度での総合評価	
救命救急センター	田崎 修	救命医学を学ぼう!	救命医療は迅速であってはならない。本ゼミにおいては、限られた時間の中で論理的に思考し、救急疾患の診断と治療を進める救命医学の醍醐味を体験する。	臓器や診療科の枠を超えて、「救急的」診療法を学ぶ。また、救急診療に必要となる技術や知識、集中治療等、救急医療で必要となる技術をシミュレーションで体験する。	金曜日3校時	大学病院救命救急センター-医局(国際医療センター3階)に集合	出席や授業態度で評価する。	
先端医学センター	安武 亨	スポーツ医学概論	スポーツを通じて医学を学ぶ	運動生理学・スポーツ栄養学など	火曜日または木曜日16:30から	医学部セミナー室2など	授業参加状況、レポートなど	体育会系部活に所属する人あるいはスポーツに興味がある人で、グループ討論が出来る人を募ります。

Practical English Skills for Third Year Medical Students

Instructors: Luc Loosveldt
Jim Briganti

Class Time : to be decided

E-mail: lluc@nagasaki-u.ac.jp
jbrigantit@nagasaki-u.ac.jp

Office Hours: to be announced in class

Course Objectives	
This is a continuation of the second years' English courses, but with a special focus on the language of medical research. Students will support each other's learning in class and prepare short presentations to demonstrate their comprehension of the topics introduced in class.	
Required Textbooks	
Materials will be assigned and made available in class,	
Topics	
1	Introduction to the course
2	First group meeting: establishing group roles, deciding on first topic, deciding on topic focus, presentation proposal/ rubric
3	First group discussion; first presentation proposal
4	The abstract + presentation script script
5	Short presentations + Q&A practice
6	Second topic; second group discussion
7	Second report; giving feedback on each other's report
8	The abstract + presentation script + presentation practice
9	Second Short Presentation followed by Q&A
10	Third topic; second group discussion
11	Third report; giving feedback on each other's reports
12	Third Short Presentation followed by Q&A - choosing the final topic
13	Final topic - synthesizing what we learned for the final poster session
14	Final report; review posters, review scripts, practice scripts
15	Final Poster sessions
Course work and Evaluation	
Students will be evaluated on the basis of classwork, assignments, vocabulary quizzes, group project, written work, and written research proposals. A detailed breakdown of the evaluation process will be provided in class.	
<i>*The above syllabus is meant as a general guide, not a definite time table.</i>	